

カムチベット語塔城・格登 [sKobsteng] 方言の音声分析

鈴木博之

(エクス・マルセイユ大学/国立民族学博物館)

Khams Tibetan sKobsteng [Gedeng] dialect : phonetic analysis

SUZUKI, Hiroyuki

Aix-Marseille Université / National Museum of Ethnology

Tibetan sKobsteng dialect is one of Khams Tibetan, spoken in Gedeng hamlet, Haini subvillage, Tacheng Town, Weixi County, Diqing Prefecture, Yunnan. It belongs to the Melung subgroup of the Sems-kyi-nyila dialect group. This article analyses phonetic and dialectal characteristics of the sKobsteng dialect. This dialect is characterised with the existence of the phonemes such as an aspirated uvular plosive /q^h/, a retroflex contrast between plosives /t^h, t, q/ and affricates /tʂ^h, tʂ, qʂ/, retroflex vowels such as /e^ɣ, ɛ^ɣ, ɑ^ɣ, ɔ^ɣ, ʉ^ɣ/ and a pharyngealised vowel /a^ɣ/. At the end of this article, a wordlist (ca. 1100 words) of sKobsteng Tibetan is provided.

キーワード: カムチベット語, 香格里拉 (Sems-kyi-nyila) 方言群, 音声学, 方言学

Keywords : Khams Tibetan, Sems-kyi-nyila dialect group, phonetics, dialectology

1. はじめに
2. sKobsteng 方言の音体系
3. 超分節音
4. 母音
5. 子音
6. 藏文との対応関係による sKobsteng 方言の特徴づけ
7. 語形式による sKobsteng 方言の特徴づけ
8. まとめ

1. はじめに

本稿では、雲南省迪慶 [bDe-chen]¹ 藏族自治州維西 [ˈBa'-lung] 僳僳族自治州塔城 [mTha'-chu] 鎮海尼行政村格登 [sKobs-steng] 自然村で話されるカムチベット語 sKobsteng (格登) 方言の音声分析を行い、それに基づき方言上の特徴づけを行う。

鈴木博之, 2014. 「カムチベット語塔城・格登 [sKobsteng] 方言の音声分析」. 『アジア・アフリカの言語と言語学』 8: 123–161. [Permanent URL: <http://hdl.handle.net/10108/75672>]

¹ チベットの地名など固有名詞で漢字で音写されているものには, [] 内にチベット文語形式 (藏文) を添える。

末尾に語彙リスト（約 1100 項目）を付す。

1.1. 迪慶州のチベット語方言

雲南省迪慶藏族自治州は、カムチベット語分布地域の最南端を占めると同時にチベット語が分布する地域の東南角にあたる。この地域はチベット語を母語とするチベット族以外にも、納西族や傈僳族など他の少数民族が居住し、多くの少数民族言語が話されている。筆者の分類（鈴木 (2012c) が最新の見解）に基づけば、迪慶州のカムチベット語は大きく 2 つの方言群に分けることができ、Sems-kyi-nyila（香格里拉）方言群と sDerong-nJol（得榮・徳欽）方言群がある。このうち、本稿で扱う迪慶州維西県塔城鎮海尼行政村格登自然村で話される sKobsteng 方言は、前者に属している。雲南省迪慶州内に分布する Sems-kyi-nyila 方言群の下位分類は以下のようになる²。

表 1：迪慶州内に分布する Sems-kyi-nyila 方言群の下位分類

方言区分	下位方言区分	所属方言例（迪慶州内に限る）
Sems-kyi-nyila 香格里拉	rGyalthang	rGyalthang [建塘], rGyalbde [吉迪], Yangthang [小中甸], sKadgrag [格咱]
	雲嶺山脈東部	Nyishe [尼西], Byagzhol [霞若], Qidzong [其宗], mBacug [巴珠]
	Melung	mThachu [塔城], Zhollam [勺洛]
	Phuri	Phuri [普上]
	Lamdo	Lamdo [浪都]

以上の中で、sKobsteng 方言は Melung 下位方言群に属する。この下位方言群は、音声面において他の下位方言群と大きな異なりがある。これまでの Melung 下位方言群に属する方言の記述研究では、維西県永春郷で話される Melung 方言を扱う鈴木、ツェリ・ツォモ (2007)、同県塔城鎮柯那 [‘Khor-lo] 行政村で話される mThachu/nKhorlo 方言を扱う鈴木 (2010c)、同県攀天閣郷嘎嘎塘行政村勺洛自然村で話される Zhollam 方言を扱う鈴木 (2011ab) などがある。また、Melung 下位方言群の諸方言を複数取り上げたものに Suzuki (2011) や鈴木 (forthcoming) がある。

1.2. sKobsteng 方言の言語環境

sKobsteng 方言には他の Melung 下位方言群の諸方言と比べ、次のような注目すべき事情がある。まず、sKobsteng 方言の分布地域は他のチベット語方言からマリマサ（瑪麗瑪薩）語³によって隔てられて孤島になっている。次に、同方言の話者が基本的に母語（sKobsteng 方言）、マリマサ語、維西漢語を含む 3 つ以上の言語

² 所属方言例の項目には、方言名とそれに対応する漢語の地名を添えている。

³ マリマサ語はナシ（納西）語の方言と言われることがあるが、大きな問題を抱えている。従来のナシ語方言研究では東部方言群と西部方言群に分けられることが多いが、前者をモソ語（群）と呼んで分離し後者を狭義のナシ語と理解する見解が提出され、「ナシ語」の定義が一義的でない点がある。一方、マリマサ語はその使用者の歴史から、東部方言群すなわちモソ語（群）のメンバーであるといわれる。この点について、歴史的関連に関する決定的な証拠はいまだ提出されていない。いずれにしても、マリマサ語はチベット語とは異なる語支に属している。なお、マリマサ語には 2 つの変種があり、汝可村の方言と海尼村の方言に分かれる。

を操る多言語使用者であって、かつ地域の共通語がマリマサ語である。いずれも他のチベット語方言には見られない特徴的なものである。

呉光范 (2009:510) によると、格登村はチベット族の村であると記述されているが、実際はチベット族でありながらマリマサ語を母語とするチベット族も多い。というのも、マリマサ語話者は民族識別の際に独立した民族とされず、基本的にはナシ族を選択したが、村落に異なる多数派の民族がいる場合はその民族に合わせて登録した経緯があるという。チベット語を母語とするチベット族の多い地域のマリマサ語母語話者は自らの民族としてチベット族を選択し、リス語を母語とするリス族の多い地域のマリマサ語母語話者はリス族を選択したといった具合である。ゆえに、民族の統計から各言語の話者の総数を推し量ることは困難である。

1.3. 本稿の構成

本稿は、先に sKobsteng 方言の音体系を紹介した後、声調・母音・子音の順で具体例を挙げつつ考察を加える。そののち、蔵文との対応関係に基づいて方言の特徴づけを行う。

本稿で分析する言語資料は筆者の現地調査による一次資料に基づく。主な調査協力者はスノン・ドマ [bSod-nams sGrol-ma] さんおよび建春さん（いずれも 50 代女性；格登村出身）である。調査は 2013 年、維西県塔城鎮で行った。なお、調査の際には筆者の友人である唐潔さんおよび和麗珍さんに漢語-マリマサ語の通訳として同席してもらった。

2. sKobsteng 方言の音体系

ここではまず sKobsteng 方言の音体系全体について、超分節音、母音、子音、音節構造の順に紹介する。

2.1. 超分節音

sKobsteng 方言の超分節音はピッチの高低による声調として実現され、4 種が認められる。

ˉ: 高平 ˊ: 上昇 ˋ: 下降 ˊˋ: 上昇下降

2.2. 母音

以下の母音について、長短および鼻母音/非鼻母音の対立が存在する。また、そり舌化、咽頭化も認められる。

表 2：sKobsteng 方言の母音の舌位置一覧

i	ɯ	ɯ	u
e	ə ɵ		o
ɛ			ɔ
a	ɐ	ɑ	

以上のほかに、唇歯母音/ γ ⁴もある。

2.3. 子音

音節構造の主子音 (C_i) 位置に現れる一覧は次のようである。

表3：sKobsteng 方言の主子音 (C_i) となりうる子音一覧

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h		k ^h	q ^h	
	無声無気	p	t	t		k		ʔ
	有声	b	d	d		g		
破擦音	無声有気		ts ^h	tɕ ^h	tɕ ^h			
	無声無気		ts	tɕ	tɕ			
	有声		dz	dʒ	dʒ			
摩擦音	無声有気		s ^h	ɕ ^h	ɕ ^h	x ^h		
	無声無気		s	ɕ	ɕ / ɕ̥	x		h
	有声		z	ʒ	ʒ	ɣ		ɦ
鼻音	有声	m	n		ɲ	ŋ		
	無声	m̥	n̥			ŋ̥		
流音	有声		l	r				
	無声		l̥					
半母音	有声	w			j			

2.4. 音節構造

音節構造の設定は、鈴木 (2005) を参照して以下のように記述できる。

$^C C_i G V C C$ ただし前鼻音については $CCVCC$ も認められる。

このうち C_i (主子音) と V (音節核の母音) が必須である。音節末子音が2つ存在する事例は、「わたり音/ w /または/ j /+/ $ʔ$ /」となる。

3. 超分節音

sKobsteng 方言で弁別的な超分節音素は、ピッチの高低による声調の対立で、高平調、上昇調、下降調、上昇下降調の4種に分かれる。それらは語単位でかかることが多いが、複合語ではもとの形態素それぞれがもつ声調を保持している場合がある。ただし3音節以上の語の場合、第1、第2音節までで弁別的な声調の型を形成し、第3音節以降は [2²] 程度の高さで現れる。

声調は、語の記述では引用形 (言い切り形) の声調を示す。というのも、下降を有する下降調、上昇下降調は、後続要素を伴い語単独で発音しない場合にしばしば下降が認められず、それぞれ高平調、上昇調で現れることがあるためである。

⁴ 「唇歯母音」という名称については、鈴木 (2013) を参照。

以下に、語の音節別の調値を5段階で表示した例をあげる（S=音節）。初頭子音の性質によって、若干具体的な調値に異なりがあるが、弁別的ではない。

表4：sKobsteng 方言の声調の現れ

	高平調	上昇調	下降調	上昇下降調
1 音節語	$\bar{m}\bar{e}$ [S ⁵⁵] 「葉」	$\acute{m}e:$ [S ²⁴] 「バター」	$\grave{m}\bar{a}$ [S ⁵³] 「2」	$\hat{m}\bar{a}$ [S ¹³²] 「人」
2 音節語	$\bar{n}e\ n\bar{e}$ [S ⁵⁵ S ⁵⁵] 「胆囊」	$\acute{m}\bar{a}\ hi?$ [S ¹³ S ⁵⁵] 「人民」	$\grave{n}o\ k\bar{e}$ [S ⁵⁵ S ²²] 「ここ」	$\hat{m}\bar{a}\ h\bar{e}:$ [S ¹³ S ²²] 「狂人」

4. 母音

母音には長短および鼻母音/非鼻母音が確認され、それぞれ弁別的である。そり舌化母音は/e, ɛ, ɤ, ʌ, ɔ/のみが認められ、咽頭化母音は/a^ʔ/のみが認められる。

/ɣ/の調音について、主たる調音は下唇と上歯との接近であるが、舌位置及び唇の形状は[o]に近い。鈴木(2013)の記述方式では、[ɣ_o]と書ける。

4.1. 非鼻母音

以下に二次的調音の伴わない母音について、長短に着目して具体例を掲げる。

	短母音例	長母音例
i	$\bar{n}i$ 火	$\acute{p}i:$ 羊毛
e	$\bar{k}e\ \gamma\bar{u}:$ 皆	$\acute{h}se:$ 金
ɛ	$\bar{s}^he\ m\bar{e}?$ 肉	$\acute{l}u\ ^hse:$ 新年
a	$\acute{f}i\ d\bar{z}e\ ka\ ra$ 蜘蛛	$\acute{f}i\ n\bar{e}\ ^f ga:$ 聾啞者
ɤ	$\acute{h}t\bar{e}$ 馬	$\acute{t}e:$ 今
ʌ	$\acute{h}t\bar{a}?$ 虎	$\acute{s}^h\bar{a}:$ 鹿
ɔ	$\acute{f}i\ b\bar{o}?$ 空気	$\acute{t}\bar{o}:\ j\bar{u}$ ロバ
o	$\acute{f}i\ z\bar{o}$ 尻	$\acute{t}s^h\bar{o}:$ 階層建築
u	$\acute{n}ts^h\bar{u}$ 湖	$\acute{f}i\ \bar{a}:\ t^h\bar{u}:$ 骨
ʊ	$\acute{n}\bar{u}?$ 鼻水	$\acute{h}su:$ 太もも
ə	$\hat{m}\bar{a}$ 人	$\acute{n}d\bar{a}:$ 鬼
ʊ	$\acute{t}s^h\bar{u}$ 水	$\acute{f}i\ \bar{n}\bar{u}:$ 銀
ø	$\acute{p}\bar{e}?$ チベット人	$\acute{?}a\ h\bar{e}:$ きゅうり
ɣ	$\acute{s}^h\bar{y}\ t\bar{a}?$ 炭	$\bar{t}y:$ 驛馬

そり舌化母音は舌先を後部歯茎付近に向けてそらせて調音する文字通りのそり舌化として実現する。そり舌化母音の音声実現は、初頭子音の調音が終わって以降徐々にそり舌化が行われる点に特徴づけられ、末子音としての音価は認めがたい。一方で、初頭子音が/f/で母音が/ɔ/の組み合わせの音節が第2音節に来る場

合、初頭子音/fi/の調音時にもそり舌の特徴が認められ、[fiʔ]のような音声実現になることがある。そり舌化母音は短母音である例が多いが、音声学的には通常母音より若干長くなることがある。ただしそり舌化長母音も少数ではあるが存在し、母音の長短は有意である。/ɑ/の非鼻母音は認められない。一方、咽頭化母音は母音の調音時に舌根を咽頭壁に接近させることによって実現する。

短母音例		長母音例
e	ˈfiɛʔ	よい
ɛ	ˈfiɛ̃ˈdoʔ	子山羊
ɑ	ˈfiɑ̃ kʰɔ̃	自分
ə	ˈpə	雲
ɯ	ˈmɯ ˈzɔ̃	水田
a	ˈpaʔ	がけ
		ˈkʰɔ̃: 産む
		ˈpã: 額（ひたい）

4.2. 鼻母音

鼻母音は短母音のみが認められる。また、/ɐ, ɣ/の鼻母音は認められない。

i	ˈci	屁
e	ˈsɛ	ごはん
ɛ	ˈmɛ̃	薬
a	ˈci fiã	砂
ɐ		
ɑ	ˈsɑ̃	両（重量単位）
ɔ	ˈli	うし年
o	ˈtɔ̃ zɔ̃	箱
u	ˈgĩ	ボタン
ɯ	ˈnĩ	天
ə	ˈsɔ̃	畑
ɯ	ˈtɕũ	着る
ə	ˈtsʰə̃	色
ɣ		

そり舌化鼻母音や咽頭化鼻母音も限られた例ではあるが存在する。いずれも短母音のみである。/ɯ/の鼻母音は認められない。

e	ˈdzɔ̃ fĩ	遠い
ɛ	ˈtã̃ fĩ	今日
ɑ	ˈfiɑ̃ kʰɔ̃	自分
ə	ˈfiɑ̃ kʰɔ̃	自分
ɯ		
a	ˈtã̃ fĩ	今日

5. 子音

子音は、単子音、子音連続および末子音に分けて具体例を挙げつつ考察する。

5.1. 単子音

単子音の具体例は、可能な限り 2 例ずつ挙げる。

5.1.1. 閉鎖音・破擦音

sKobsteng 方言は閉鎖音・破擦音について基本的に無声有気、無声無気、有声の 3 系列を有する。

/t^h, t/は若干摩擦を含むが、常に破擦音として実現する/tʂ^h, tʂ/と対立を形成する。/q^h/は音声学的に [k^h] を変異としてもつ。そり舌閉鎖音類および有声音の単子音の例は比較的少なく、後者はあるとしても語中に現れる場合が多い。なお、/d, g/は単子音として存在しない。

	例語	語義	例語	語義
p ^h	ˈp ^h ɑʔ	ぶた	ˈp ^h ɑʔ lu	子ぶた
p	ˈpə mu	ひざ	ˈpə	息子
b	ˈʔa be	父	ˈba bu	鉄なべ
t ^h	ˈt ^h ɔ	平原	ˈt ^h uʔ k ^h e	住居
t	ˈto we	煙	ˈtu:	墓
d	ˈde duʔ	えんどう		
t ^h	ˈt ^h ə tʂ ^h a	万		
t	ˈtʂa:	勝つ	ˈtə	尋ねる
q				
k ^h	ˈk ^h e	口	ˈk ^h ə	竹垣
k	ˈko po	桃	ˈkō me	アリ
g				
q ^h	ˈq ^h ɑ:	雪	ˈq ^h uʔ	針
ʔ	ˈʔa lu	赤ん坊	ˈʔō poʔ	ポット
ts ^h	ˈts ^h e	塩	ˈts ^h e: me	とげ
ts	ˈtsu me	スープ	ˈle tsə	唐辛子
dz	ˈdze ʷgo	年をとる	ˈk ^h e dzeʔ	とうもろこし
tʂ ^h	ˈtʂ ^h o wu	みかん	ˈtʂ ^h u	水
tʂ	ˈtʂa	茶	ˈtʂō ʰtʂi:	十一
dz	ˈʰtʂiʔ ˈdzə dzə	毎日		
tɕ ^h	ˈtɕ ^h ɑ:	埃	ˈtɕ ^h ũ	家
tɕ	ˈtɕe ˈduʔ	ねずみ	ˈtɕō	壁
dz	ˈs ^h ẽ dzi	獅子		

5.1.2. 摩擦音

sKobsteng 方言は歯茎, そり舌, 前部硬口蓋の摩擦音に無声有気, 無声無気, 有声の3系列を有する。軟口蓋摩擦音は無声有気, 無声無気の2系列が存在する。声門摩擦音は無声, 有声の2系列が存在する。硬口蓋摩擦音は無声無気のみが存在する。/z, x^h, x, h/の例は少ない。

	例語	語義	例語	語義
s ^h	ˈs ^h ɑ:	雹	ˈs ^h u	齒
s	ˈsɐ	食べる	ˈsu wɐ	鎌
z	ˈza ku	靴下	ˈʔa ze ˈze	ゆっくりの
ʃ ^h	ˈʃ ^h ɐ ʧã mə	狩人	ˈʃ ^h u mu	きのこ
ʃ	ˈʃɔ	箸	ˈʃu	鳴く
z _l	ˈ ^h kuũ ˈzɔ	乾燥地	ˈ ^h zɛ zu:	若い
ɕ ^h	ˈɕ ^h ɔʔ ze	孤児	ˈɕ ^h iʔ	半分
ɕ	ˈɕi le	猫	ˈɕu wɐ	ね年
ʒ	ˈʒi:	である		
ɕ	ˈɕɔ	心臓	ˈɕɔ mɐ	竹
x ^h	ˈx ^h ɛ	得る		
x	ˈxɛj ˈt ^h ɑʔ	碾き臼		
ɣ	ˈɣaː	山羊	ˈ ^h kə ɣaːʔ	ベルト
h	ˈhɛ	狂う	ˈpɐ mo ˈhĩ	少女
fi	ˈfiə	山	ˈfiu mɐ	乳

5.1.3. 共鳴音

sKobsteng 方言の共鳴音は, /ɲ, r, w, j/を除いて有声と無声の2系列が存在する。/r/の例は少なく, 実際の音価は [ɾ] であることが多い。/j/は単独で存在しない。

	例語	語義	例語	語義
m	ˈmaʔ pɐ	夫	ˈmɐ	二
m̥	ˈm̥ɐ lã	願う	ˈmaː	あざ
n	ˈnɔ ˈmbɔ:	明日	ˈno	これ
ɲ	ˈɲɔ	存在する	ˈɲũ	植物油
ɲ̥	ˈɲɐ	魚	ˈɲɔ	名前
ɳ	ˈɳɐ	私	ˈɳɔ:	他の人
ŋ	ˈŋɛ ju	緑の	ˈŋɛ nɔ	前
l	ˈle	尾根	ˈlu mɐ	葉
l̥				
r	ˈ ^h dʒɐ ka ra	蜘蛛	ˈ ^h pi ja ruʔ	男
w	ˈwɛ tɐ	左	ˈwɛː le kaː	めじろ
j	ˈjɐ k ^h ə	袖	ˈji ˈdʒi	ノート

5.2. 子音連続

ここでは、sKobsteng 方言における子音連続を主子音 C_i に先行する要素によって分類して述べ、ついでわたり音 G を含むもの、3 子音連続について述べる。

5.2.1. 前鼻音

前鼻音は、その後続子音が有声音か無声有気音かによって分けて例を挙げる。

有声音に先行する場合

- ${}^m\mathbf{b}$: ${}^m\mathbf{b}\mathbf{\partial}?$ 龍
- ${}^n\mathbf{d}$: ${}^n\mathbf{d}\mathbf{e}$ 矢
- ${}^n\mathbf{d}$: ${}^n\mathbf{d}\mathbf{\partial}$ 鬼
- ${}^n\mathbf{g}$: ${}^n\mathbf{g}\mathbf{u}$ 頭
- ${}^n\mathbf{dz}$: ${}^n\mathbf{dz}\mathbf{a}$ 昼食
- ${}^n\mathbf{dz}$: ${}^n\mathbf{dz}\mathbf{y}$ 鋤
- ${}^n\mathbf{dz}$: ${}^n\mathbf{j}\mathbf{\tilde{e}}\ {}^n\mathbf{dz}\mathbf{i}?$ 2月

無声有気音に先行する場合

- ${}^m\mathbf{p}^h$: ${}^m\mathbf{p}^h\mathbf{e}?$ ${}^m\mathbf{p}^h\mathbf{e}?$ 横の
- ${}^n\mathbf{t}^h$: ${}^n\mathbf{t}^h\mathbf{u}$ ${}^n\mathbf{t}^h\mathbf{u}$ 高い
- ${}^n\mathbf{t}^h$: ${}^n\mathbf{t}^h\mathbf{u}$ 減らす
- ${}^n\mathbf{k}^h$: ${}^n\mathbf{k}^h\mathbf{\partial}?$ 導く
- ${}^n\mathbf{q}^h$: ${}^n\mathbf{q}^h\mathbf{a}^{\text{f}}$ 鷹
- ${}^n\mathbf{ts}^h$: ${}^n\mathbf{ts}^h\mathbf{u}$ 湖
- ${}^n\mathbf{ts}^h$: ${}^n\mathbf{ts}^h\mathbf{\tilde{e}}\ {}^m\mathbf{be}$ 肝臓
- ${}^n\mathbf{t}\mathbf{c}^h$: ${}^n\mathbf{t}\mathbf{c}^h\mathbf{i}\ {}^m\mathbf{e}$ 腎臓

5.2.2. 前気音

前気音は、その有聲性が後続子音と一致する。

- ${}^h\mathbf{p}$: ${}^h\mathbf{p}\mathbf{a}^{\text{f}}$ 額
- ${}^h\mathbf{t}$: ${}^h\mathbf{t}\mathbf{o}\ \mathbf{we}$ 腹
- ${}^h\mathbf{t}$: ${}^h\mathbf{t}\mathbf{a}\ \mathbf{\partial i}$ 蚊
- ${}^h\mathbf{k}$: ${}^h\mathbf{k}\mathbf{u}\ \mathbf{me}$ 泥棒
- ${}^h\mathbf{ts}$: ${}^h\mathbf{ts}\mathbf{\partial}\ \mathbf{we}$ 草
- ${}^h\mathbf{ts}$: ${}^h\mathbf{ts}\mathbf{a}?$ 鉄
- ${}^h\mathbf{t}\mathbf{c}$: ${}^h\mathbf{t}\mathbf{c}\mathbf{i}?$ 声
- ${}^h\mathbf{s}$: ${}^h\mathbf{s}\mathbf{e}$ 金 (きん)
- ${}^h\mathbf{\text{ʃ}}$: ${}^h\mathbf{\text{ʃ}}\mathbf{\partial}$ 小便
- ${}^h\mathbf{\text{ʃ}}$: ${}^h\mathbf{\text{ʃ}}\mathbf{\tilde{o}}\ \mathbf{k}^h\mathbf{u}$ 狼
- ${}^h\mathbf{l}$: ${}^h\mathbf{l}\mathbf{\tilde{u}}$ 靴

^hb : ^hboʔ 空気
^hd : ^hdo wə 石
^hq : ^hqiʔ 火であぶる
^hg : ^hgũ ボタン
^hdz : ^hdzə ^hdzə 側 (そば)
^hdz : ^hdzə wə 蚤
^hdz : ^hdziʔ 八
^hz : ^hzo 尻
^hz : ^hzi: ^hmu しあさって
^hz : ^hzi wə 真の
^hm : ^hme ^hme 低い
^hn : ^hne ^htũ 物語
^hɲ : ^hɲu: お金
^hɲ : ^hɲe 太鼓
^hl : ^hle: wō おす牛
^hj : ^hje ^hme 花椒

5.2.3. わたり音を含むもの

わたり音には/w/が存在する。それぞれ少数例のみに確認される。

^hw : ^hkwe 蒸しパン
^hw : ^htci kwe 食用種子
^hw : ^ht^hwə bo 折れる
^hw : ^hʂə ^hwə めじろ

5.2.4. 3子音連続

sKobsteng 方言で最も複雑な初頭子音の形式である。確認される例は少ない。

^hgw : ^hgwā ^htə ^hgu 退く

5.3. 末子音

sKobsteng 方言に認められる末子音には, /ʔ, w, j; wʔ/がある。このうち, /ʔ/が大部分の例を占める。末子音は先行する母音との共起制限があり, 特に長母音とは結びつかない。以下に絶対語末および語中に分けて例をあげる。

	絶対語末例		語中例	
	例語	語義	例語	語義
ʔ	^h boʔ	空気	^h fuʔ pu	友人
w			^h ɔw wu	やせた
j	^h a k ^h ɛj	備中鍬	^h pej ts ^h uʔ	ふるい
wʔ	^h towʔ	食料		

6. 蔵文との対応関係による sKobsteng 方言の特徴づけ

チベット文語（蔵文）形式と口語形式の対応関係を探ることは、チベット語方言の特徴を分析する伝統的な手法であり、西 (1986) や鈴木 (2008b), 張濟川 (2009) などの先行研究において一定の注目すべき対応関係の傾向が示されている。

ここでは、sKobsteng 方言の特徴を初頭子音と母音＋音節末形式および声調の3つに分けて述べる。ただし、蔵文 r が母音に先行する事例については、初頭子音と母音＋音節末形式の両方にわたって述べる。また、sKobsteng 方言を特徴づける要素について、適宜他方言の事例との対比を注記する。なお、この考察の目標は通時的な議論を行うのではなく、方言の特徴づけを行うためのいくつかの指標に基づいた対応関係を提示することにある。なお、蔵文は Wylie 式の転写で示す。チベット文字の表す音価は格桑居冕・格桑央京 (2004:379-390) を参照。

6.1. 初頭子音

初頭子音の形式について、sKobsteng 方言は蔵文と比べると単純である。先行研究で注目されるいくつかの対応関係に着目して述べていく。

6.1.1. 閉鎖・破擦・摩擦音の有声性

閉鎖・破擦・摩擦音について、蔵文で基字に先行する子音字がない有声音字 g, j, d, b, zh, z⁵ およびそれに足字 y, r を伴うものは、語頭においてそれぞれの調音点の無声音に対応し、頭字もしくは前接字がある場合は有声音が対応する。この対応関係は広くカムチベット語にみられる関係と同じである。以下に例をあげる。

無声音例

ˈpu 「息子」 (bu)

ˈtʂa 「茶」 (ja)

ˈto we 「煙」 (du ba)

ˈtɕɔ 「壁」 (gyang)

ˈɕe 「鶏」 (bya)

ˈʂɔ 「畑」 (zhing)

有声音例

ˈbi pe 「蛙」 (sbal ba)

ˈdʒe: 「忘れる」 (brjed)

ˈgu 「門」 (sgo)

ˈdʒi? 「八」 (brgyad)

ˈzɔ 「晴れた」 (bzang)

ˈzɐ 「四」 (bzhi)

なお、蔵文 db 対応形式は /b/ となり⁶、蔵文 dby 対応形式は前気音を伴う /^hj/ となる。たとえば以下のようなものである。

ˈbo? 「空気」 (dbugs)

ˈje: k^he 「夏」 (dbyar kha)

⁵ 有声音字としては dz も含まれるが、dz ではじまる蔵文形式に対応する口語形式は得られていない。

⁶ この音対応は雲南省のカムチベット語の大部分に認められる。

蔵文で基字に先行する子音字がない有声音字について、第2音節初頭位置では有声音が現れる場合がある⁷。以下に例をあげる。

語頭例

ʼsɛ̃ 「ごはん」 (*zan*)

語中例

ʼso: zɛ̃ 「朝食」 (*zhogs zan*)

摩擦音について、蔵文で基字に先行する子音字がない無声音字 *s*, *sh* には無声有気音が対応する。先行する子音があれば無声無気音で現れる。以下に例をあげる。

ʼsʰɐ̃ 「土」 (*sa*)

ʰsu 「育てる」 (*gso*)

ʼʂʰi: 「知っている」 (*shes*)

6.1.2. 蔵文 *sh*, *zh* 対応形式

蔵文 *sh*, *zh* 対応形式は上掲の例にも示されているが、そり舌摩擦音となる。以下に例をあげる。

ʼʂʰa: 「鹿」 (*shwa ba*)

ʰdzɐ̃ 「4」 (*bzhi*)

ʼʂoʔ le: 「朝」 (*zhogs pa*)

6.1.3. 蔵文 *c*, *ch*, *j* 対応形式

蔵文 *c*, *ch*, *j* 対応形式は上の例にも示されているが、基本的にそり舌破擦音となる。以下に例をあげる。

ʼtʂʰa: 「雨」 (*char pa*)

ʰdzɐ̃ we 「蚤」 (*lji ba*)

ʰtʂi: 「1」 (*gcig*)

ʰdzɐ̃: 「鋤」 (*ʼjor*)

ʰtʂʰɛ̃ mbe 「肝臓」 (*mchin ba*)

6.1.4. 蔵文 *Py* 対応形式

蔵文 *Py* は、*p*, *ph*, *b* に足字 *y* を伴う形式を含む対応形式についていう。

sKobsteng 方言の対応形式は上の例にも示されているが、基本的に前部硬口蓋摩擦音になる。以下に例をあげる。

ʼɕɐ̃ 「鶏」 (*bya*)

ʰɕi me 「砂」 (*bye ma*)

ʼɕʰi 「開ける」 (*phye*)

ʰɕɔ̃ kʰu 「狼」 (*spyang khu*)

⁷ 動詞において接頭辞がついた場合には適用されない。

6.1.5. 蔵文 Ky 対応形式

蔵文 Ky は, k, kh, g に足字 y を伴う形式を含む対応形式についていう。

sKobsteng 方言の対応形式は, 基本的に前部硬口蓋破擦音である。以下に例をあげる。

ˈtɕʰɪʔ 「あなた」 (*khyod*)

ˈtɕɔ̃ 「壁」 (*gyang*)

ˈdʑɐ 「漢族」 (*rgya*)

ˈtɕu ˈpɐ 「酸っぱい」 (*skyur po*)

なお, ˈtsʰə 「犬」 (*khyi*) は例外である⁸。

6.1.6. 蔵文基字 r 対応形式

蔵文基字 r は, 原則として初頭子音が /f/ に対応し, 後続の母音をそり舌化もしくは咽頭化する。母音の性質によっては, これらの二次的調音が生じないものもある。以下に例をあげる。

ˈfiə̃ 「山」 (*ri*)

ˈtā̃ ˈfiə̃ 「今日」 (*de ring*)

ˈfiə̃ tɕo: 「長い」 (*ring po*)

ˈfiə̃ʔ 「よい」 (*red*)

ˈfiuʔ pu 「友人」 (*rogs po*)

語中に /f/ が来る場合, [fi] の発音時にすでにそり舌を形成し, [fĩ] となる例がある。この場合直接 /fĩ/ と記述するが, 特別な音素を設定するというわけではない。

ˈdʑɔ̃ ˈfiə̃ 「遠い」 (*rgyang ring*)

ˈje fĩə̃ʔ 「回復する」 (*yar red*)

初頭子音が /f/ 以外で対応する例として, 次のようなものがある。

ˈɣã 「山羊」 (*ra*)

ˈʔa ɣãʔ 「酒」 (*a rag*)

6.1.7. 蔵文足字 r 対応形式

蔵文足字 r を含む組み合わせには, Pr (=p, ph, b に足字 r を伴う形式を含む対応形式), Kr (=k, kh, g に足字 r を伴う形式を含む対応形式), Tr (=dr, ˈdr), sr などがある。sKobsteng 方言では, 蔵文 Tr, sr 対応形式を除き, 蔵文足字 r が多くの例で後続する母音に影響を与え, そり舌化母音や咽頭化母音を形成する要素になる。以下に例をあげる。

⁸ この例外的な対応は雲南省に分布するほとんどのカムチベット語諸方言に共通してみられる。

ˈpaʃʔ 「がけ」 (<i>brag</i>)	ˈŋgu ^h kaʃ 「髪」 (<i>mgo skra</i>)
ˈpəʃ 「雲」 (<i>sprin</i>)	ˈkʰaʃʔ 「血」 (<i>khrag</i>)
ˈmbəʃʔ 「龍」 (<i>'brug</i>)	ˈkəʃ 「ナイフ」 (<i>gri</i>)
ˈbʊʃ 「蛇」 (<i>sbrul</i>)	ˈŋgu 「行く」 (<i>'gro</i>)

一方で少数ではあるがそり舌閉鎖音になる例もある。また、藏文 Tr 対応形式もそり舌閉鎖音になる。以下に例をあげる。

ˈtʰə tʰa 「1 万」 (<i>khri chag</i>)	ˈŋdʰə 「鬼」 (<i>'dre</i>)
ˈtʰʔ 「六」 (<i>drug</i>)	

sKobsteng 方言における藏文 sr を含む形式の一般的な対応関係は前気音を伴う無声無気歯茎摩擦音である。以下に例をあげる。

ˈse: mɐ 「豆」 (<i>sran ma</i>)	ˈsuʔ ɕʰɐ 「薄い」 (<i>srab ?</i>)
ˈsā 「両 (重量単位)」 (<i>srang</i>)	

6.1.8. 藏文足字 w 対応形式

sKobsteng 方言では、藏文足字 w が⁹/w/を初頭子音とする第2音節として実現される例がある⁹。以下に例をあげる。

ˈʂə wɐ 「帽子」 (<i>zhwa</i>)	ˈtʰsə wɐ 「草」 (<i>rtswa</i>)
-----------------------------	-------------------------------

ただし、ˈtʰɐ 「塩」 (*tshwa*) などでは現れない。

6.1.9. 藏文 l, lh 対応形式

sKobsteng 方言では、藏文 l, lh は基本的にそれぞれ/l, ^hl/に対応する。以下に例をあげる。

藏文 l	藏文 lh
ˈlaʔ pɐ 「手」 (<i>lag pa</i>)	ˈl̥uʔ 「靴」 (<i>lham</i>)
ˈloʔ 「綿羊」 (<i>lug</i>)	ˈl̥ɐ 「神仏」 (<i>lha</i>)

藏文 l が足字になる場合の対応形式は、藏文 sl が^hl/に対応する以外は、基本的に^hl/に対応する。以下に例をあげる。

ˈl̥ɐ ˈkɛ: m̥u 「月 (天体)」 (<i>zla ? ?</i>)	ˈl̥ɔ ma 「風」 (<i>rlung ma</i>)
ˈl̥ɐ: k̥ɔ 「脳」 (<i>klad ?</i>)	ˈl̥uʔ 「教える」 (<i>slob</i>)
ˈl̥ɔ 「うし年」 (<i>glang</i>)	

⁹ これは迪慶州で話される大部分の方言に共通する現象である。

6.1.10. 前鼻音を含む子音連続

sKobsteng 方言の前鼻音を含む子音連続については、前鼻音要素に後続する子音に無声有気音と有声音の2種が認められる。前鼻音に対応する蔵文には'とmの2種があるが、口語形式では鼻音部と後続子音は常に調音点を同じくする。以下に例をあげる。

ˈdzy: 「鋤」('jor)

ˈgu 「頭」(mgo)

ˈgu 「行く」('gro)

ˈtʰɔʔ ɕʰe 「厚い」('thug ?)

ˈpʰeʔ mʰeʔ 「横の」('phred 'phred)

ˈtʰu 「湖」(mtsho)

6.1.11. 蔵文頭字 s + 鼻音字の対応形式

蔵文 sm, sn, sny, sng, smy 対応形式について、sny, smy を除いたものはそれぞれ対応する調音位置の無声鼻音となる。以下に例をあげる。

ˈmaʔ: 「ほくろ」(sme ba)

ˈne 「鼻」(sna)

ˈŋe ju 「緑の」(sngon po)

蔵文 sny, smy 対応形式は無声硬口蓋摩擦音または無声声門摩擦音になる¹⁰。以下に例をあげる。

ˈɕe 「心臓」(snying)

ˈɕe me 「竹」(smyug ma)

ˈhe 「狂う」(smyon)

6.2. 母音 + 音節末形式

6.1.6 および **6.1.7** で示したように、sKobsteng 方言では母音の直前に蔵文 r がある場合、母音の形式に影響を与える。そのため、母音 + 音節末形式を取り上げる場合には、この蔵文 r の有無によって場合分けをする必要がある¹¹。

蔵文 r が母音に先行しない場合の語末位置における基本的な対応関係は以下のよう示すことができる。

¹⁰ この対応関係は迪慶州のカムチベット語では非常に珍しい。ただし同じ Melung 下位方言群に属する、麗江市永勝県で話される Daan (大安) に類似の現象が認められる (鈴木 2009b)。

¹¹ このような分析は Melung 下位方言群の諸方言では特に必要とされる。鈴木 (2011b) や Suzuki (2011) の記述を参照。

表5 : sKobsteng 方言の蔵文 r が母音に先行しない場合の語末位置における基本的な対応関係

V\C	# / '	b	d	g	m	n	ng	r	l	s
a	e	uʔ	ɛʔ / iʔ	aʔ	ũ	ẽ / ẽ	õ	ɛ:	u:	e: / i:
i	ə	uʔ	əʔ	iʔ	ũ	ə:	ã		i:	i:
u	u	uʔ	uʔ	ɔʔ	õ	ã	õ	u:	u:	u:
e	i	uʔ	eʔ / iʔ	aʔ	ũ	ẽ	ã	ə:	ɣ:	ə
o	u	uʔ	əʔ	owʔ	õ / ũ	õ / ɔ:	õ	ɣ:	ɣ:	ɣ: / u:

以上のうち、蔵文後接字 b, d, g に対応する口語形式には声門閉鎖音を伴い、蔵文後接字 m, n, ng に対応する口語形式には鼻母音が現れるというのが主たる対応関係である。また、蔵文後接字が両唇音である場合、口語形式の母音は後舌非円唇高母音である例が多い。以下にいくつか例をあげる。

蔵文後接字を伴わない例

ˈkʰe 「口」 (*kha*)

ˈmə 「人」 (*mi*)

ˈtʂʰu 「水」 (*chu*)

ˈni 「火」 (*me*)

ˈfiɡu 「門」 (*sgo*)

蔵文後接字が閉鎖音の例

ˈnʊʔ 「鼻水」 (*snabs*)

ˈkʰe lʊʔ 「ふた」 (*kha leb*)

ˈhʈʂiʔ 「声」 (*skad*)

ˈme ˈniəʔ 「飲みこむ」 (*mar mid*)

ˈɕʰiʔ 「半分」 (*phyed*)

ˈfiə: 「いる/ある」 (*ˈod*¹²)

ˈpʰaʔ 「ぶた」 (*phag*)

ˈniʔ 「目」 (*mig*)

ˈdzaʔ 「這う」 (*ˈdzeg*)

ˈlɔʔ 「綿羊」 (*lug*)

蔵文後接字が鼻音の例

ˈlũ 「道」 (*lam*)

ˈtʂʰũ 「家」 (*khyim*)

ˈtõ 「熊」 (*dom*)

ˈnẽ 「聞く」 (*nyan*)

ˈdõ 「七」 (*bdun*)

ˈtʂũ 「着る」 (*gyon*)

ˈtʰõ 「平原」 (*thang*)

ˈʂõ 「薪」 (*shing*)

蔵文後接字が以上に示したもの以外の例

ˈmɛ: 「バター」 (*mar*)

ˈse: 「金」 (*gser*)

ˈno: 「誤った」 (*nor*)

ˈni: 「銀」 (*dgnul*)

ˈpy: 「猿」 (*sprel*)

ˈʂi: 「知っている」 (*shes*)

ˈju: 「う年」 (*yos*)

¹² ˈod は *yod* の古い形式である (rNam-rgyal Tshe-ring 2001:498)。

一方、藏文 *r* が母音に先行する場合¹³は、前掲の藏文 *r* が母音に先行しない場合に比べて例が少ない。確認される対応関係は以下のように示すことができるが、空白が多くなっているのはやむを得ない。

表 6：sKobsteng 方言の藏文 *r* が母音に先行する場合の基本的な対応関係

rV\C	# / ' b	d	g	m	n	ng	r	l	s
a	a ⁵		a ⁵ ʔ			ɛ / ɛ [~]		a ⁵ :	
i	ɛ [~]	ɛ [~]			ɛ [~]	ẽ / ẽ [~]		i:	i:
u	u		ɛ [~] ʔ			ɛ:		u:	ɛ / u:
e	ɛ:	ɛ [~] ʔ						ɛ:	ə
o	u		uʔ / ɛ [~]			õ		ɛ:	

以上に示したもののの中には認められる事例が少ないものも含まれるため、主要な傾向を示しているとは限らない点に注意が必要である。ただし母音に先行する藏文 *r* が咽頭化母音やそり舌化母音の形成に関わっている点は疑いがない¹⁴。

以下に 6.1.6, 6.1.7 で挙げていない例をいくつかあげる。

ˈpʰa ⁵ na 「細い」 (<i>phra</i> ?)	ˈbɛ [~] 「砂糖」 (<i>sbrang</i>)
ˈkʰɛ [~] ʔ 「導く」 (<i>'khrid</i>)	ˈbɛ [~] naʔ 「ハエ」 (<i>sbrang nag</i>)
ˈmʰɛ [~] ʔ mʰɛ [~] ʔ 「横の」 (<i>'phred 'phred</i>)	ˈkʰɛ [~] : 「産む」 (<i>'khrung</i>)
ˈka ⁵ : 「怖がる」 (<i>skrag</i>)	ˈpa ⁵ : 「額」 (<i>dpral</i>)
ˈɕɛ fiuʔ 「からす」 (<i>bya rog</i>)	ˈtɕ: 「驢馬」 (<i>drel</i>)
ˈmɔ mʰɛ [~] ʔ 「強盗」 (<i>mi 'phrog</i>)	ˈfiɛ [~] tʰu: 「骨」 (<i>rus</i> ?)

6.3. 声調

声調を有するチベット語方言の分析において、声調の歴史的発展は議論されるべき重要な問題である。ここでは通時的な議論で注目される藏文との対応関係を基準に述べる。

sKobsteng 方言では、藏文と声調の対応関係が比較的明瞭に現れるのは単音節語の事例に限られる。複音節語の声調パターンは、藏文との対応のみで決定されるものではないようである。このため、以下に示すのは単音節語の事例のみとしておく。

sKobsteng 方言の声調体系は語声調で、語頭の音節初頭部が高いか低いかの異なりと音節末尾で下降するかしないかの 2 通りで構成され、計 4 種の弁別が行われる。チベット語の声調発生は音節初頭子音群の単純化と密接な関連がある。sKobsteng 方言の場合、音節初頭における声調の高さの藏文との対応関係について、先に述べた母音と同様に簡潔に対応の傾向を述べると、以下のようになる。

¹³ ただし藏文 *sr* の組み合わせを先行子音とするものは除く。

¹⁴ 迪慶州のカムチベット語の中には、Melung 下位方言群の諸方言以外にもそり舌化母音をもつ方言が存在する。ただし、これらの方言に認められるそり舌化母音は藏文後接字 *r* に由来しているという点に注意が必要である（鈴木 2011c, 2012d）。

(無指定)とする点は、声調の現れと頭字/前接字の有無に関連性があまり見られないものである。

表7：sKobsteng 方言の声調と蔵文の対応関係

頭字/前接字	基字など	声調
(無指定)	無声無気閉鎖・破擦・摩擦音, 無声有気閉鎖・破擦音	高
なし	有声閉鎖・破擦・摩擦音	低
あり	有声閉鎖・破擦・摩擦音	高・低
なし	共鳴音	低
あり	共鳴音	高
(無指定)	足字l	高

以上のうち、頭字/前接字のある有声閉鎖・破擦音に対応する口語形式には、高・低両方の声調が現れる¹⁵。

共鳴音の場合、原則的に頭字/前接字がなければ低声調はじまりの声調に、頭字/前接字があれば高声調はじまりの声調に対応する。ただし例外がいくつかあり、たとえば^ˈloʔ「綿羊」(*lug*), ^ˈʁaʔ「山羊」(*ra*)などがある。

なお、音節末における声調の下降の有無については、現段階では蔵文との対応関係で説明を与えることは困難である。

7. 語形式による sKobsteng 方言の特徴づけ

蔵文との対応関係による方言の特徴づけは、チベット語方言の中の類型的特点を明らかにするものである。これに対し、語形式による方言の特徴づけは、方言間の類型の類似を越えて、地域的な側面から分析することになる。

ここでは、蔵文との対応関係から見て、来源が通常の蔵文との対照からでは説明の与えられないいくつかの語形式についてまとめる。

7.1. 口蓋垂音

sKobsteng 方言には、口蓋垂で調音される音素に無声有気閉鎖音/qʰ/が認められる。いずれの例も音声学的には口蓋垂音 [qʰ] のほかに軟口蓋音 [kʰ]¹⁶での発音も許容されるが、口蓋垂音の発音が可能かつ通常であるのは以下のものに限られる。

^ˈqʰa: 「雪」(*kha ba*)

^ˈqʰaʔ 「鷹」(*khra*)

^ˈqʰuʔ 「針」(*khab*)

^ˈqʰə ɕʰe 「にがい」(*kha ?*)

このうち、「雪」「にがい」の例は口蓋垂閉鎖音の報告されるチベット語諸方言においても一般的に口蓋垂閉鎖音を含む語である。ところがこのような方言群は

¹⁵ これは mBathang (巴塘) 方言や Derge (徳格) 方言でも問題になっている事柄で (格桑居冕 (1985), 江荻 (2002:264-265) など), いくつかのカムチベット語方言ではよく見られる現象である。

¹⁶ 調音位置は後部軟口蓋であることが多いが, 母語話者によると軟口蓋音素/kʰ/の音声実現と同じであるととらえられる。

sKobsteng 方言が分布する地域と離れた地域で用いられ¹⁷、一方 sKobsteng 方言の分布地域の周辺に口蓋垂閉鎖音をもつ方言は未報告である¹⁸。

さて、sKobsteng 方言話者は多くがマリマサ語話者でもあるが、マリマサ語には口蓋垂音系列が存在する。ところが、以上の語についてマリマサ語の対応語彙は「苦い」を除いて口蓋垂音を含まない¹⁹。この状況において、sKobsteng 方言における口蓋垂閉鎖音の存在を歴史的にどのように説明できるか、という疑問が生じる。残念ながら、現段階では説明を与えることは難しい。

7.2. 音節の縮約現象

sKobsteng 方言では、以下のように蔵文から考えると音節の縮約を起こしていると思われるいくつかの語がある。

ʈʂʰa: 「雨」(*char ba*)

ʂʰa: 「雹」(*ser ba*)

ʂʰa: 「雹」(*ser ba*)

ˈmaː˥˥: 「ほくろ」(*sme ba*)

これらの例を見ると、口語形式では母音が長母音化しているのが特徴的で、対応する蔵文の第2音節が *ba*, *mo* などになっている²⁰。

7.3. 古蔵文に対応する語

sKobsteng 方言には、いくつか古蔵文 *my* に対応する語形式がある²¹。

¹⁷ 主に四川省阿壩藏族羌族自治州に分布する諸方言に認められる。たとえば華侃 主編 (2002) の dMarthang (紅原) 方言, Sun (2003) の Zhongu (熱務溝) 方言, 鈴木・イエシエムツォ (2006) の rNgawa (中阿壩) 方言, 鈴木 (2007b) の Babzo (包座) 方言, 鈴木 (2007c) の Rangakha (新都橋) 方言, 鈴木 (2010d) の Astong (大寨) 方言の記述を参照。ほかにも、王雙成 (2012:216-217) に gCiggril (久治) 方言や Padma (班瑪) 方言の例がある。

一方、口蓋垂閉鎖音をもつチベット語諸方言において、「鷹」の語が口蓋垂閉鎖音で現れない理由は、蔵文 *khra* の初頭子音連続 *kh* が現代の方言形式においてすでに音変化を起こし、軟口蓋音を含まなくなったためではないかと考えられる。「針」の例で口蓋垂音を含むものは羌語群の言語に認められる (黄布凡 2012)。

¹⁸ 筆者が最近記述した Sems-kyi-nyila 方言群 rGyalthang 下位方言群に属する Myigzur (尼汝) 方言には、口蓋垂音をもつ例が頻出する。これは一定の音変化に従って成立したものであり、sKobsteng 方言のように散発的に現れるのではない。詳細は別稿で扱うことにする。

¹⁹ 特に味覚を表す語彙は sKobsteng 方言とマリマサ語で共通するものが多いことから、マリマサ語が周辺のカムチベット語から借用した可能性も考えられる。

²⁰ このような縮約現象は Chaphreng 方言群の方言に顕著に見られる現象である (鈴木 2007a) ほか、迪慶州で話される方言でも例語は少数ながら同様の現象が確認される (鈴木 2012d) が、中でも Melung 下位方言群の Zhollam 方言では縮約が認められる複数の語に咽頭化が生じている (鈴木 2011b)。音節の縮約による咽頭化はミャンマーで話されるカムチベット語 Sangdam 方言にも認められる (鈴木 2012b)。

²¹ 古蔵文については、rNam-rgyal Tshe-ring (2001) 参照。

表 8 : sKobsteng 方言における古蔵文に対応する語

sKobsteng 方言	古蔵文	蔵文	語義
ʼŋi	<i>myi</i>	<i>mi</i>	〜でない
ʼŋeʔ	<i>myed</i>	<i>med</i>	存在しない
ʰŋiʔ	<i>dmyig</i>	<i>mig</i>	目
ˉŋi	<i>mye</i>	<i>me</i>	火
ʰme ʰŋəʔ	<i>mar myid</i>	<i>mar mid</i>	飲みこむ
ʰfə:	<i>'od</i>	<i>yod</i>	いる/ある

上から 3 語の示す形式は迪慶州で話される方言全体に見られる特徴である²²。「火」は古蔵文を見ても低声調での対応を予測させるが、実際は声調が高く現れる。「飲み込む」の例については古蔵文の例を見ても有声前気音が現れる点を説明できない。「ある/いる」については古蔵文に一致するが、迪慶州で話される方言では sKobsteng 方言でのみ用いられる点で興味深い。

8. まとめ

本稿では、Sems-kyi-nyila 方言群 Melung 下位方言群に属する sKobsteng 方言の音体系を示し、蔵文と口語の対応関係を分析することでその方言特徴を明らかにした。示された特徴はこれまでに記述されたことのある他の Melung 下位方言群のうち、口蓋垂音をもっている点、蔵文末子音 b の対応形式、蔵文鼻音末子音の対応形式の面で、明確な異なりを認めることができる。

sKobsteng 方言の音体系上の特徴としては、/qʰ/は言うまでもなく、そり舌系列における閉鎖音と破擦音の対立やそり舌化母音、咽頭化母音などの存在をあげることができる。蔵文との対応関係の観点から見ると、先に触れたような蔵文末子音 b の対応形式が一律/tuʔ/になる点、蔵文鼻音末子音の対応形式がすべての例で鼻母音である点のほか、Melung 下位方言群を特徴づける基字/足字 r を含む語の音対応などが認められる。

参 考 文 献

- 華侃 主編. 2002. 《藏語安多方言詞匯》蘭州：甘肅民族出版社
 黃布凡. 2012. 〈藏緬語的小舌音〉《語言學論叢》第四十五輯 157–174
 江荻. 2002. 《藏語語音史研究》北京：民族出版社
 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med]. 1985. 〈藏語巴塘話的語音分析〉《民族語文》第 2 期 16-27
 格桑居冕, 格桑央京 [sKal-bzang dByangs-can]. 2004. 《實用藏文文法教程 [修訂本]》成都：四川民族出版社
 rNam-rgyal Tshe-ring. 2001. *Bod-yig brDa-rnying Tshig-mdzod*. 北京：中國藏學出版社
 西義郎. 1986. 「現代チベット語方言の分類」『国立民族学博物館研究報告』11 卷 4 号 837–900 + 1 地図
 Sun, Jackson, T.-S. 2003. Phonological profile of Zhongu: a new Tibetan dialect of Northern Sichuan. *Language and Linguistics* 4.4, 769–836

²² 鈴木 (2008a, 2009ac, 2010ab, 2011d, 2012ad) 参照。また、《中甸県誌》(1997) などでも注目されている。

- 鈴木博之. 2005. 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
- . 2007a. 「甘孜州郷城県カムチベット語の方言特徴」『ニダバ』第 36 号 17-26
- . 2007b. 「チベット語包座 [Babzo] 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 74 号 101-120
- . 2007c. 「カムチベット語康定・新都橋 [Rangakha] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 2 号 131-162
- . 2008a. 「迪慶州瀾滄江流域カムチベット語（徳欽/雲嶺/燕門/巴迪方言）の方言特徴」『ニダバ』第 37 号 115-124
- . 2008b. 「迪慶藏語是康巴藏語中的“一個”次方言嗎」《康定民族師範高等專科學校學報》第 3 期 6-10
- . 2009a. 「迪慶州金沙江流域カムチベット語（奔子欄/尼西/頂霞若/其宗方言）の拖頂/霞若/其宗方言の方言特徴」『ニダバ』第 38 号 29-38
- . 2009b. 「納西文化圏のチベット語・永勝県大安 [Daan] 方言の方言所属」『国立民族学博物館研究報告』2009-34 卷 1 号 167-189
- . 2009c. 「カムチベット語奔子欄 [sPomtserag] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 4 号 219-258
- . 2010a. 「カムチベット語燕門/斯嘎 [Yanmen/Sakar] 方言の方言特徴」『ニダバ』第 39 号 78-87
- . 2010b. 「カムチベット語香格里拉県浪都 [Lamdo] 方言の方言所属」『国立民族学博物館研究報告』2010-35 卷 1 号 231-264
- . 2010c. 「カムチベット語維西塔城 [mThachu] 方言におけるそり舌化母音—その音声学的特徴の記述と分析」『京都大学言語学研究』第 29 号 27-42
- . 2010d. 「ヒャルチベット語松潘・大寨 [Astong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 5 号 117-155
- . 2011a. 「カムチベット語嘎嘎塘・勺洛 [Zhollam] 方言の文法スケッチ」大西正幸・稲垣和也編『地球研言語記述論集』3, 1-35
- . 2011b. 「嘎嘎塘藏語的咽化元音與其來源」《語言暨語言學》第 12.2 期 477-500
- . 2011c. 「音變過程中產生又消失的軟顎化元音—雲南徳欽燕門郷穀扎藏語之例—」《京都大学言語学研究》第 30 号 35-49
- . 2011d. 「カムチベット語小中甸・吉念批 [Yangthang/Gyennyemphel] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 6 号 137-173
- . 2012a. 「迪慶州香格里拉県中央域カムチベット語（建塘/小中甸/格咱方言）の方言特徴」『ニダバ』第 41 号 61-70
- . 2012b. 「カムチベット語 Sangdam 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 83 号 37-58
- . 2012c. 「カムチベット語香格里拉県巴拉 [mBalhag] 方言の方言特徴」『国立民族学博物館研究報告』2012-37 卷 1 号 53-90
- . 2012d. 「カムチベット語雲嶺・查里通 [Tsharethong] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 7 号 155-194
- . 2013. 「 y —チベット・ビルマ系諸言語における“唇齒母音”—」大西正幸・稲垣和也・伊藤雄馬編『地球研言語記述論集』5
- . forthcoming. 「雲南維西藏語的 r 介音音演變—兼談“兒化”與“緊喉”之交叉關係—」《東方語言學》
- Suzuki, Hiroyuki. 2011. Deux remarques supplémentaires à propos du développement du *ra-brags* en tibétain parlé. *Revue d'étude tibétaine* Vol. 20, 123-133
- 鈴木博之, イェシエムツォ. 2006. 「アムドチベット語中阿壩 [rNgawa] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 1 号 59-88
- 鈴木博之, ツェリ・ツォモ. 2007. 「カムチベット語維西 [Melung] 方言の r 化母音とその来歴」『京都大学言語学研究』第 26 号 93-101
- 王雙成. 2012. 《藏語安多方言語音研究》上海：中西書局
- 吳光范. 2009. 《迪慶・香格里拉旅遊風物誌—沿著地名的線索》昆明：雲南人民出版社

雲南省中甸県地方誌編纂委員會編. 1997. 《中甸県誌》昆明：雲南民族出版社

張濟川. 2009. 《藏語詞族研究—古代藏族如何豐富發展他們的詞匯》北京：社會科學文獻出版社

分類語彙 1100

配列は華侃 主編 (2002) に準拠し、名詞、数詞、代名詞、形容詞、動詞の順である。名詞は、意味によって小区分を設けた。

天文地理

天	ˈniũ	岩石	ˈdo wɛ
太陽	ˈni mɛ	洞窟	ˈpaːʔ pʰə
光	ˈsə:	洞穴	ˈkɔ tō
月	ˈlɛ ˈkɛ: mũ	川	ˈtʂʰu
星	ˈkɛ: mɛ	湖	ˈtsʰu
天気	ˈniũ ˈzɔ	渡し場	ˈtʂʰu kʰɛ
雲	ˈpə	道	ˈlũ
雷	ˈmbəʔ ˈluʔ	平原	ˈtʰɔ
風	ˈlɔ mɛ	沼	ˈnɜ:
雨	ˈtʂʰa:	土	ˈsʰɐ
雪	ˈkʰa: / ˈqʰa:	畑	ˈsə
雹	ˈsʰa:	水田	ˈmɜ ˈzɔ
霜	ˈkɛ mũ	乾燥地	ˈkũ ˈzɔ
露	ˈsə: pɛ	農区	ˈfiə tsʰu
霧	ˈnə hē	牧区	ˈfi gɔ kʰɐ
氷	ˈsɔ	石	ˈdo wɛ
火	ˈni	砂	ˈci mɛ
煙	ˈto wɛ	埃	ˈtɕʰa:
空気	ˈbiʔ	泥	ˈnɕɛ ˈmbɛ
旱魃	ˈkũ	水	ˈtʂʰu
水害	ˈmbəʔ ˈdze wo	金	ˈse:
地	ˈsʰɐ	銀	ˈni nɜ:
山	ˈfiə	鉄	ˈtʂʰaʔ
尾根	ˈlɛ	橋	ˈtsʰə ˈmbɛ
谷	ˈsʰɔ	住居	ˈtʰuʔ kʰɐ
がけ	ˈpaːʔ	故郷	ˈfiə ji:

人体

体	ˈlɜ pu	額	ˈpaːʔ
頭	ˈgu	眉毛	ˈniʔ ˈpu
髪	ˈgu ˈkaː	目	ˈniʔ
お下げ	ˈje ˈlɛ	鼻	ˈnɛ

鼻の穴 ʼkɔ tō
 耳 ʼfi nɛ pɛ
 顔 ʼfi dō
 口 ʼkʰɐ
 唇 ʼfi tɕʰu h pɛ
 あごひげ ʼʔa tsō
 あご ʼm bu tɕi:
 首 ʼh su kō
 肩 ʼlaʔ ɕoʔ
 背 ʼfi gō
 脇 ʼlaʔ zɯʔ
 胸 ʼtō kʰɐ
 乳房 ʼnu nu
 乳 ʼfi u mɛ
 腹 ʼh to wɛ
 へそ ʼh tɯ: jɛ
 腰 ʼh koʔ pɛ
 尻 ʼfi zo
 太もも ʼh su:
 ひざ ʼpɔ mu
 下腿 ʼfi zu h pɛ
 足 ʼh kō m bɛ
 腕 ʼlaʔ pɛ
 手 ʼlaʔ pɛ
 親指 ʼn tʰi ʼh pɔ mɛ
 小指 ʼʔa kə ʼn dzɯ rɔ

爪 ʼsʰō mu
 あざ ʼmaʰ:
 傷口 ʼfi maʰ / ʼfi mɛ: tʰuʔ
 肌 ʼfi na
 血 ʼkʰaʰʔ
 脳 ʼfi lɛ: kō
 骨 ʼfi ɔ tʰu:
 歯 ʼsʰu
 舌 ʼh tɕɔ:
 肺 ʼfi lo wɛ
 心臓 ʼʃō
 肝臓 ʼfi tɕʰɛ m bɛ
 腎臓 ʼn tɕʰi mɛ
 胆嚢 ʼnɛ nɛ
 胃 ʼlō kʰɐ
 腸 ʼfi dzɯ mɛ
 大便 ʼh tɕi kwɛ
 小便 ʼh ɕɔ:
 屁 ʼɕi
 つば ʼtɕʰɛ mu
 鼻水 ʼnɯʔ
 涙 ʼfi niʔ tɕʰu
 膿 ʼfi naʔ
 声 ʼh tɕiʔ

人物

人 ʼmɔ
 人民 ʼmɔ hiʔ
 チベット人 ʼpɔʔ
 漢族 ʼfi dzɐ
 赤ん坊 ʼʔa lu
 老人 ʼʔa ni
 老婦人 ʼʔa jɛ
 男 ʼh pi ja ruʔ
 女 ʼpɯ mɛ ruʔ
 少年 ʼpɯ lu hi
 少女 ʼpɯ mo ʼhi

商人 ʼtsʰō ʼfi dzɯ: mɔ / ʼlo pã
 軍人 ʼfi maʔ mɔ
 大工 ʼh puʔ ʼfi dʒɔ
 狩人 ʼɕʰɛ ʃã mɔ
 料理人 ʼsɛ ʼfi zu
 学者 ʼji ʼfi dzɔ ʼh luʔ mɔ
 こじき ʼsɛ ʼh lō
 泥棒 ʼh ku mɛ
 強盗 ʼmɔ m pʰɔʔ
 病人 ʼmɔ ʼnɛ pu
 皇帝 ʼn gu ʼfi dzɔ:

友人 ʼfiuʔ pu
 仕立て屋 ʰlɛ̃ m̥ba ʰlɛ̃
 靴屋 ʰlũ ʳtsʰaʔ
 石屋 ʰdo wɛ ʰdɔ̃ mə
 肉屋 ʰpʰaʔ ʃwɛ
 盲人 ʰniʔ ke:
 聾啞者 ʰnɛ̃ ʰga:
 禿げの人 ʰlɛʔ tʰuʔ ʰpɛ: tʰuʔ
 猫背の人 ʰgɔ̃ m̥bu
 ばか者 ʰdoʔ ʰpi:
 口唇裂 ʰtɕʰu tɕʰe
 狂人 ʰmə hɛ:
 口の聞けない人 ʰdoʔ ʰpi:
 客 ʰdɛ̃ mə
 知り合い ʰsʰə ʰsʰə ʰde bwɛ
 知らない人 ʰmɛ̃ ʰsʰə wɛ
 祖父 ʰʔa ɳi
 祖母 ʰʔa jɛ
 父 ʰʔa bɛ
 母 ʰʔa mɛ
 両親 ʰʔa bɛ ʰʔa mɛ
 息子 ʰpu
 息子の嫁 ʰnɛ: mɛ
 娘 ʰpu mu

家畜

家畜 ʰsʰɔʔ ʰzɛ̃
 牛 ʰpɛ̃ ʰlɔ̃
 水牛 ʰtɕʰu ʰlɔ̃
 ヤク ʰjɔʔ
 おす牛 ʰlɛ: wɔ̃
 めす牛 ʰpɛ̃
 乳牛 ʰpo woʔ
 湿牛糞 ʰnɔ̃ ʰtɕaʔ
 皮 ʰdeʔ pɛ̃
 毛 ʰpu
 尾 ʰdoʔ mɛ̃
 馬 ʰtɛ̃
 おす馬 ʰtɛ: bɛ̃

娘婿 ʰmaʔ pɛ̃
 孫息子 ʰsũ tsə
 兄 ʰʔa wu
 姉 ʰʔa zɛ̃
 弟 ʰɳu tɕʰɔ̃
 妹 ʰnɳu mu
 父の兄 ʰʔa kʰu
 父の兄の妻 ʰʔa ni
 甥 ʰsũ tsə
 兄弟 ʰɳu tɕʰɔ̃
 姉妹 ʰɳu sʰũ
 母の兄弟 ʰʔa zɔ̃
 母の兄弟の妻 ʰʔa ni
 母の姉妹の夫 ʰʔa kʰu
 母の姉妹 ʰʔa ʰdʒi
 家族 ʰtɕʰũ nɔ̃ ʰmə
 親戚 ʰɳu sʰũ ʰɳu wɛ̃
 夫 ʰmaʔ pɛ̃
 妻 ʰnɛ: mɛ̃
 継父 ʰʔa kʰu
 子なしの女性 ʰmə kə
 私生児 ʰgu ʰse:
 孤児 ʰsʰɔʔ zɛ̃

めす馬 ʰtɛ: mɛ̃
 馬糞 ʰtɛ: ʰtɕaʔ
 綿羊 ʰlɔʔ
 山羊 ʰʔạ̌
 子山羊 ʰfiɛ̃ ʰdoʔ
 羊毛 ʰpi:
 羊糞 ʰfiɛ̃ ʰtɕaʔ
 騾馬 ʰtɕ:
 ロバ ʰtɔ: jɳ
 ぶた ʰpʰaʔ
 めすぶた ʰpʰaʔ mɛ̃
 おすぶた ʰbɔ̃ lu
 子ぶた ʰpʰaʔ lu

ぶた糞 ʔpʰaʔ hʔtɕaʔ
 犬 ʔtsʰə
 めす犬 ʔtsʰə ʔmɐ
 猟犬 ʔsʰɐ tsʰə
 犬糞 ʔtsʰə hʔtɕaʔ
 猫 ʔci lɐ
 うさぎ ʔpʰɔ̃ ʔjaʔ
 鶏 ʔcɐ
 おんどり ʔkō kō

めんどり ʔcɛ mu
 とさか ʔsə jɐ
 翼 ʔdoʔ mɐ
 羽 ʔpʰu
 鶏糞 ʔcɛ hʔtɕaʔ
 鴨 ʔtsʰu jɐ
 鳩 ʔpʰɔ̃ dɐ:

その他の動物

虎 ʔhʔaʔ
 獅子 ʔsʰẽ dʒi
 龍 ʔmbəʔ
 爪 ʔaʔ pɐ
 猿 ʔpɣ:
 熊 ʔtō
 いのしし ʔpʰaʔ tsʰaʔ
 鹿 ʔsʰa:
 キバノロ ʔsʰa:
 ねずみ ʔtɕe nʔduʔ
 土ねずみ ʔnɐ: pə ʔcə wɐ
 ねずみ糞 ʔtɕe nʔduʔ hʔtɕə kwɐ
 リス ʔtʰɔ̃ ʔpaʔ
 狼 ʔcɔ̃ kʰu
 狐 ʔtu: ʔlu lu
 鳥 ʔcɐ:
 鳥の巢 ʔcɐ: tsʰɔ̃
 鳥糞 ʔcɐ: hʔtɕaʔ
 鷹 ʔkʰaʔ / ʔqʰaʔ
 ツバメ ʔtsʰu li ʔhʔke tɐ
 すずめ ʔcɐ: pʰəʔ

からす ʔcɛ fiuʔ
 めじろ ʔsʰə ʔsʰwəʔ / ʔwɛ ʔle kaʔ
 孔雀 ʔfi ma jɐ
 蛇 ʔfi bu:
 蛙 ʔfi bi pɐ
 魚 ʔnɐ
 虫 ʔsʰə mʔbu
 蚤 ʔfi dʒɐ wɐ
 しらみ ʔsʰiʔ
 ハエ ʔfi bɛː naʔ
 アブ ʔmbu
 蚊 ʔhʔa ci
 蜘蛛 ʔfi dʒɐ ka ra
 蜘蛛の糸 ʔfi dʒɐ ka ra kuʔ pɐ
 アリ ʔkō mɐ
 アリ塚 ʔkō mɐ ʔtsʰɔ̃
 ミツバチ ʔfi bɛː mu
 ばった ʔtsʰe tsʰɐ
 蝶 ʔʔa ku ʔpɛ leʔ
 さそり ʔhʔtō nɐ ʔka lɐ

植物

木 ʔsʰɔ̃ pʰō
 枝 ʔje hʔlɐ
 苗 ʔmbəʔ tsʰɔ̃

根 ʔhʔkō mʔbɐ
 葉 ʔlu mɐ
 花 ʔxwɐ xwɐ

芽	^m bə̃ ^ː m̥bə̃ ^ː t̚s̚h̥õ	カラスムギ	ˈji: ʰpu
柳	ˈh̥t̚s̚õ m̥e p̚h̥õ	とうもろこし	ˈk̚h̥e dzeʔ
松	ˈh̥õ p̚h̥õ	野菜	ˈjoʔ m̥e
竹	ˈç̚õ m̥e	大根	ˈl̥e buʔ
とげ	ˈts̚h̥e: m̥e	唐辛子	ˈl̥e tsə
果物	ˈs̚h̥ə t̚h̥oʔ	にんにく	ˈfi goʔ p̥e
桃	ˈko po	ジャガイモ	ˈja ju
梨	ˈs̚h̥ə li	食用種子	ˈh̥t̚ei kwe
みかん	ˈt̚s̚h̥o wu	きゅうり	ˈʔa h̥e:
柿	ˈfi d̚ze: ʃ̚h̥oʔ	豆	ˈh̥se: m̥e
ぶどう	ˈfi gu:	大豆	ˈfi go ʰse: m̥e
胡桃	ˈh̥t̚e ʰge	蚕豆	ˈh̥s̚e lowʔ
食料	ˈt̚h̥owʔ	えんどう	ˈd̚e duʔ
米	ˈt̚ə m̥e	草	ˈh̥tsə w̥e
種	ˈs̚h̥õ	きのこ	ˈʃ̚h̥u mu
稲	ˈh̥tsə w̥e	ひまわり	ˈfi m̥e ˈxw̥e xw̥e
玄米	ˈʃ̚h̥o: ʰpu		
小麦	ˈne m̥bu:		

食物

ごはん	ˈs̚e	砂糖	ˈfi b̥ə̃ ^ː
粥	ˈt̚h̥oʔ p̥e	氷砂糖	ˈfi do w̥e ˈfi b̥ə̃ ^ː
蒸しパン	ˈk̚h̥we / ˈmoʔ moʔ	酢	ˈts̚h̥u
乾物	ˈk̚h̥we	花椒	ˈfi je ʰme
朝食	ˈʃ̚o: z̚e	卵	ˈfi g̚õ w̥e
昼食	ˈn̥d̚a:	スープ	ˈtsu m̥e
夕食	ˈm̥buʔ s̚e	酒	ˈʔa ʔaʔʔ
肉	ˈʃ̚h̥e m̥eʔ	湯	ˈts̚h̥o t̚s̚h̥u
油	ˈfi dowʔ / ˈme: k̚h̥uʔ	茶	ˈt̚sa
脂肪油	ˈfi doʔ buʔ / ˈp̚h̥aʔ ʰdoʔ	タバコ	ˈje
バター	ˈm̥e:	薬	ˈm̥e
ツアンパ ²³	ˈh̥ts̚e m̥be	ぶたの餌	ˈp̚h̥aʔ ʰtu
牛肉	ˈfi l̥õ ʰne	馬の餌	ˈh̥t̚e ʰne:
ソーセージ	ˈfi d̚z̚u m̥e	酒かす	ˈh̥t̚e: mu
塩	ˈts̚h̥e		

²³ 大麦やとうもろこしなどの穀物を炒って粉末にしたものの総称である。

衣料装飾

糸 ^{-h}ku? pe
 布 ^{-fi}lẽ ^mbẽ
 絹製品 ^{-fi}gu t̤^hɛ:
 衣服 ʃi ^ht̤ɛ
 チュバ²⁴ ⁻t̤^hu bẽ
 襟 ^{-h}po ^hɕẽ
 袖 ʃjẽ k^hə̃
 ボタン ^{-fi}gũ
 ズボン ^{-m}bɛ̃
 スカート ⁻ʃe mẽ
 スカーフ lẽ ^hsə

帽子 ʃə wẽ
 ベルト ^{-h}kə ʔa^ʔ?
 靴下 ʃa ku
 靴 ^{-h}lũ
 シャツ ʃi ^ht̤ɛ
 櫛 ʃ^hu mu
 宝石 ʔa ɕi:
 イヤリング ^{-fi}nɛ k^hɔ?
 指輪 ⁻dzɯ? ɕi?
 ブレスレット lɔ? n̩ɔ

住居

毛布 ^{-fi}dẽ
 枕 ^{-ŋ}go ɲẽ
 布団 ʃ^ho? ^{fi}dẽ
 家 ⁻t̤^hũ
 屋根 ⁻t̤^hũ ^ht̤ɔ
 土台 ⁻s^hɛ ts^he?
 キッチン ⁻sẽ ^{fi}zu s^hɛ
 階層建築 ʃts^ho:
 階上 ʃts^ho: ^ht̤ɔ
 階下 ʃts^ho: zɯ?
 倉庫 p̩ɔ
 牛小屋 k̩ɔ zɯ?
 ぶた小屋 p^hɔ? k̩ɔ zɯ?
 鳥小屋 ʃɛ k̩ɔ zɯ? / ʃci jẽ

壁 ʃt̤ɔ
 丸太 ʃ^hɔ
 板 ^{-h}pu lɯ?
 柱 ^{-fi}bɯ kɛ / ^{-fi}bɯ qɛ
 門 ^{-fi}gu
 門 ^{-fi}gu t^hɯ
 玄関 ^{-fi}dze ^{fi}gu
 窓 ^{-fi}gu t̤^hɔ
 階段 ^{-h}t̤ɛi:
 梁 ^{-fi}dɯ kɛ
 テント ʃjo?
 竹垣 ⁻k^hə̃
 トイレ ʃts^he so

生活用具

もの ⁻ɕe pɛ / ⁻ɕẽ pɛ
 ベッド ʔa t̤o
 箱 ^{-h}tɛ z̩ɔ / ^{-fi}dje: b̩ɔ
 鏡 ⁻t̤^hɯ ɕ^hɔ:

箒 ⁻ɕ^hɔ? mɛ
 薪 ʃ^hɔ
 炭 ʃ^hɣ ta?
 火箸 ʃmɔ tɯ?

²⁴ チベットの民族衣装で、長い袖が特徴的である。

マッチ	ˈja xo	背負いかご	ˈtsʰe kʰe
松明	ˈni tʂʰɔ̃	三脚	ˈtʂaʔ dʒi
線香	ˈhsɔ̃	吊りベルト	ˈtʰaʔ lu
ごみ	ˈfi dʉʔ	秤	ˈfi dʒi:
鉄なべ	ˈba bu	斗	ˈmbu tuʔ
蒸し器	ˈhpɔ: ˈfi zu	お金	ˈfi ɲɐ:
ふた	ˈkʰe luʔ	針	ˈkʰuʔ / ˈqʰuʔ
ナイフ	ˈkəː	釘	ˈtʂã ˈdze
柄杓	ˈfi ze wu	はさみ	ˈtso ˈte:
しゃもじ	ˈlaʔ ze	はしご	ˈtʂe:
木製椀	ˈkʰwaʔ	傘	ˈja sã / ˈsã
ボウル	ˈkʰwaʔ	鎖	ˈkʰɔʔ
皿	ˈfi de:	鍵	ˈkʰɔʔ ˈtʂi sʰe
箸	ˈʂɔ̃	棒	ˈʂɔ̃ tʂaʔ
瓶	ˈku luʔ	鞍	ˈfi ge
ポット	ˈʔɔ poʔ	馬籠頭	ˈn tʰe: tʰã
壺	ˈtʂa xu	馬嚼子	ˈkʰe ˈmbɔʔ
茶漉し	ˈtʂe tsʰaʔ	馬槽	ˈtʂe: we
水かめ	ˈtʂʰu we	鞭	ˈtʂe ˈʂaʔ sʰe
バケツ	ˈtʂe tʂe		
木製盆	ˈpʰe tsə		

その他道具

道具	ˈtʂi pe	碓き臼	ˈxej ˈtʰaʔ
斧	ˈfi dʒe: ˈtʂe	織機	ˈfi dɔ: tʂʰu
鋸	ˈsʰe ˈfi de	銃	ˈlaʔ tʂʰu
墨斗	ˈmo naʔ ˈfi dʒu: sʰe	弾	ˈn du:
鋏	ˈtʰɔ̃ ˈmbɛ	弓	ˈwe ˈfi zʉ
備中鋏	ˈʔa kʰeːj	矢	ˈn de
鋤	ˈn dʒy:	わな	ˈkuʔ pe
かつぎ棒	ˈtʂʰu ˈmbɔʔ sʰe	毒	ˈtɔʔ
縄	ˈtʰaʔ lu	磨き粉	ˈla: ˈky:
鎌	ˈsu we	贈り物	ˈpʰu ˈmbu
水槽	ˈtʂʰu we	ノート	ˈji ˈfi dʒi
ふるい	ˈpej tsʰaʔ		

文化教育

文字	ˈji m̥bu:	神仏	ˈh̥l̥e
絵	ˈt̥u xwɛ	女神	ˈh̥l̥e: ˈpu mu
本	ˈsu	鬼	ˈn̥d̥ə:
話	ˈk̥h̥e / ˈk̥h̥e m̥be?	女鬼	ˈn̥d̥ə: mu
チベット語	ˈp̥e: ˈt̥ci?	来世	ˈni fiɛ?
チベット文語	ˈp̥e: ji?	ラマ	ˈpe ˈdi
名前	ˈn̥ɔ	尼	ˈʔa d̥ɔ?
物語	ˈn̥e ˈt̥u	還俗僧	ˈpe ˈse:
笑い話	ˈn̥ge: ˈlu:	焼香	ˈh̥p̥u:
歌	ˈt̥s̥h̥ã ko	墓	ˈt̥u:
踊り	ˈn̥t̥s̥h̥ɔ̃ ˈn̥t̥s̥h̥ɔ̃ ˈbe	カタ ²⁵	ˈk̥h̥e ta?
太鼓	ˈn̥ɲe		

抽象物

苦しみ	ˈm̥e t̥ɕu:	夢	ˈn̥ɔ̃ l̥u
間違い	ˈny:	考え	ˈt̥ɛ ˈn̥d̥e wɛ
区別	ˈm̥e ˈn̥d̥e	力	ˈs̥h̥ɔ?
感謝	ˈje t̥ɔ:	裸足	ˈh̥k̥ɔ̃ ˈd̥z̥ɔ̃
影	ˈju ju	歩行	ˈh̥k̥ɔ̃ t̥h̥u?
色	ˈts̥h̥ɔ̃		

位置方角

南	ˈt̥s̥h̥u ˈɲgu	外側	ˈn̥go t̥s̥h̥u
北	ˈt̥s̥h̥u ˈn̥d̥z̥ɔ?	内側	ˈn̥ɔ̃ ˈh̥k̥ɔ̃
中間	ˈh̥ts̥ə ˈt̥ci	頂上	ˈh̥t̥ɔ̃
そば	ˈn̥dz̥ə ˈn̥dz̥ə	上側	ˈh̥tow ˈte:
左	ˈwɛ t̥e	下側	ˈsu fiɛ
右	ˈn̥ji: t̥e	以上	ˈh̥se: ˈje:
前	ˈn̥j̥ɛ n̥ɔ̃	以下	ˈh̥se: ˈs̥ɔ̃?
後	ˈk̥ɔ̃ t̥u		

²⁵ 祝福の意を表すスカーフの一種である。

時間

時間	ˈtu tsʰəʔ	いぬ年	ˈtsʰə
今日	ˈtāː ɸĩ~	ふた年	ˈpʰaʔ
昨日	ˈkʰɛ tsə mɐ	1 日	ˈtsʰə ˈhʰtʃi:
おととい	ˈtɕʰe ɸĩ mɐ	2 日	ˈtsʰə ˈmə
さきおととい	ˈɸĩzɕʰe ɸĩ mɐ	月	ˈɸilɐ
明日	ˈnō ˈmbe:	午前	ˈʃoʔ le:
あさって	ˈnō ˈɸimu	午後	ˈlɛ ˈdoʔ
しあさって	ˈɸizɕʰi: ˈɸimu	1 月	ˈlu ˈhʰsɛ:
今晚	ˈtə nuʔ	2 月	ˈɸjɛ ˈdzɪʔ
明日の晩	ˈsʰō nuʔ	誕生日	ˈhʰtsi ji ˈwɛ lu
昨日の晩	ˈno sʰũ	年	ˈlu
昼間	ˈɸu ˈmbe:	年齢	ˈlu
朝	ˈʃoʔ le:	最近	ˈɸdɪ ˈʃʰɐ mu
正午	ˈdzɔ: nə	今年	ˈtə: tʃuʔ
夕方	ˈlɛ ˈdoʔ	おとし	ˈnɛ nə
夜	ˈnɛ: mɐʔ	来年	ˈsʰō pʰəʔ
夜中	ˈnũ ɕʰiʔ	再来年	ˈɸizɕʰe pʰəʔ
真夜中	ˈnũ ɕʰiʔ	以前	ˈɸjɛ no
ね年	ˈɕu wɐ	昔	ˈɸnɛ ˈɸjɐ mu
うし年	ˈɸilɔ	今	ˈtɛ:
とら年	ˈhʰtaʔ	未来	ˈnō ˈmbe: ˈnō ˈɸimu
う年	ˈjɛ:	夏	ˈɸijɛ: kʰɐ
たつ年	ˈmbɔʔ	冬	ˈɸgu: sʰō
み年	ˈɸbu:	新年	ˈlu ˈhʰsɛ:
うま年	ˈhʰtɐ	日食	ˈɸi mɐ ˈnɛ
ひつじ年	ˈlɔʔ	月食	ˈɸilɛ ˈhʰkɛ: mu ˈnɛ
さる年	ˈhʰpɸ:		
とり年	ˈɕɐ		

数字

一	ˈhʰtʃi:	七	ˈɸdō
二	ˈmə	八	ˈɸdzɪʔ
三	ˈhʰsō	九	ˈɸgu
四	ˈɸzɕʰe	十	ˈhʰtʃu
五	ˈɸjɐ	十一	ˈtʃō ˈhʰtʃi:
六	ˈtɔʔ	十二	ˈtʃō mɐ

十三	ˈtso h sō
十四	ˈtsu: ʰzə
十五	ˈtsō ʰɲe
十六	ˈtsu? dɔ?
十七	ˈtso: ʰdō
十八	ˈtso: ʰdzi?
十九	ˈtso: ʰgu
二十	ˈni sɯ
二十一	ˈni sɯ ˈtse h tsi:
二十八	ˈni sɯ ˈtse ʰdzi?
三十	ˈsū h tɕu
三十二	ˈsū h tɕu ˈtse mə
三十八	ˈsū h tɕu ˈtse ʰdzi?
四十	ˈzə h tɕu
四十三	ˈzə h tɕu ˈtse h sō
五十	ˈɲu h tɕu
五十四	ˈɲu h tɕu ˈtse ʰzə
六十	ˈtɔ: tɕu
六十五	ˈtɔ: tɕu ˈtse ʰɲe

七十	ˈdō h tɕu
七十六	ˈdō h tɕu ˈtse dɔ?
八十	ˈdze: h tɕu
八十七	ˈdze: h tɕu ˈtse ʰdō
九十	ˈgu: h tɕu
九十八	ˈgu: h tɕu ˈtse ʰdzi?
九十九	ˈgu: h tɕu ˈtse ʰgu
百	ˈdze
百一	ˈdze nə ˈtsi:
百八	ˈdze nə ˈdzi?
八百八十	ˈdzi: ʰdze ˈdze: h tɕu
千	ˈtō tɕʰa
万	ˈtə tɕʰa
十万	ˈtə tɕʰa ˈtɕu
百万	ˈtə tɕʰa ˈdze
千万	ˈtō tɕʰa ˈdze
半分	ˈɕʰi?

数量詞

1 人	ˈni bə ˈtsi:
1 碗	ˈkʰwa? ˈdɔ? h tɕi:
1 ページ	ˈsu ˈɲu? me ˈtsi:
1 本の草	ˈtsə wə ˈpō ˈtsi:
1 粒の米	ˈtə me ˈmbeː wə ˈtsi:
1 つかみの野菜	ˈjɔ? me ˈtɕʰe ʰdɔ? kō
2 つかみの米	ˈtə me ˈpe: mu ˈtu
1 桶の水	ˈtɕʰu ˈte te kō
1 碗のごはん	ˈsē ˈkʰwa? kō
1 つかみの土	ˈsō tsə ˈmbə ˈtsi:
1 時間	ˈtu tsʰə? ˈtsi:
1 輪の花	ˈxwe xwe ˈdɔ? ˈtsi:
1 文	ˈkʰe tsʰə ˈmbə ˈtsi:
1 そろいの靴	ˈɲū ˈtɕʰe ˈtsi:
1 対のウサギ	ˈpō ʰja? ˈtɕʰe ˈtsi:
1 群れの羊	ˈlɔ? xwe ˈtsi:
1 区画の道路	ˈlū h tō kō
1 日の旅程	ˈni me ˈtsi: ˈlū

片方の靴	ˈɲū kʰeː ˈtsi:
1 口の食事	ˈsē ˈse tʰu? ˈtsi:
1 かご	ˈtsʰe kʰe kō
1 セット	ˈpō ˈnɔ? ˈtsi:
1 袋	ˈdzi: kō
1 列の家	ˈtɕʰū ˈdō h tɕi:
1 滴の油	ˈdow? ˈtʰi? tʰɔ? ˈtsi:
2 階	ˈtɕʰū ˈtsʰə ɲgo
1 つの部屋	ˈtɕʰū tɕwe ˈtsi:
1 包み	ˈpew ˈtsi:
1 瓶の酒	ˈʔa ʔaː? kɯ: lu kō
1 斤	ˈdzi: kō
2 両	ˈsā ˈtu
2 銭	ˈsu mə
1 斗	ˈte h pɯ: kō
1 元	ˈtɕə: ˈtsi:
1 角	ˈtō ˈtsi:
1 日	ˈni ˈtsi:

1 夜	ʃaʔ ʰtʃi:	1 回打つ	ʰtʃiʔ ʰdɔ̃ tə
1 か月	ʰlɐ ʰtʃi:	1 噛みする	ʰkʰɐ ʔkɔ̃ ʰde:
1 年	ʔu ʰtʃi:	いくらか	ʰi ʰke: ʰtʃi:
1 歳	ʔu ʰtʃi:	いくつか	ʰdoʔ ʰmə ʰsɔ̃
一生	ʰni tsʰə ʰtʃi:	毎日	ʰtʃiʔ ʔdʒə dʒə
1 歩	ʰkɔ̃ tʰuʔ ʔkɔ̃	それぞれ	ʰkɔ̃ ʔjɪ ʰbe:
1 度	tʰɔ̃ wɐ ʰtʃi:	1 倍	ʰeʰi: ʔmu
1 声あげる	ʰkɐ: tʰɔ̃ wɐ ʰsʰəʔ ʰtu:	毎晩	ʃaʔ ʰdiʔ ke

代名詞

私	ʔɐ	この辺	ʰno kɐ ʰtsʰə
私たち 2 人	ʔa ʔdʒə sɔ̃	この 2 つ	ʰno mə ʰɐ
私たち	ʔa ʔdʒə mə	このような	ʰtso xwɪ ʰno
あなた	ʰtʃɐʔ	あれ (近)	ʰno tsʰə
あなたたち 2 人	ʰtʃɐ mə	あれら	ʔto mə xwɐ
あなたたち	ʰtʃɐ sɔ̃	誰	ʔkɔ̃
彼 (彼女)	ʰkʰu	何	ʰkɐ ʰdzo
彼ら 2 人	ʰkʰu ʔsʰɐ mə	どこ	ʔkɐ:
彼ら	ʰkʰu ʔsʰɐ sɔ̃	いつ	ʔkə ʰdɐ: ʰzeʔ
我々	ʔa kə sɔ̃	どのように	ʰkɐ ʰdzo
我々 2 人	ʔa kə ʰmə	どれくらい	ʰkɐ ʰdze
皆	ʰke ɣɐ:	いくつ	ʰdoʔ ʰkɐ ʰdze
自分	ʰfi̯ə ʰkʰə	一切	ʰke ɣɐ:
他の人	ʰɲɔ:	今回	ʰno ʔmɐ nə
これ	ʰno	いつか	ʰpʰɐ ʰpʰɐ ne:
ここ	ʰno kɐ		

形容詞

大きい	ʔa dʒɪ	短い	tʰɔ̃ tʰɔ̃
小さい	tʃɔ̃ tʃɔ̃	遠い	ʰdʒɔ̃ fi̯ə
太い	ʰbo ʰkʰɐ	近い	ʰdʒə ʰdʒə
細い	ʰpʰa ʔna	中間の	ʰtsə ʰtɕi
高い	ʰtʰu ʰtʰu	幅広い	ʰdʒɐ ʔa dʒɪ
低い	ʰmɐ ʰmɐ	狭い	ʰmɐ ʔsʰə / ʔto ʰdoʔ
凸の	ʰtʰu ʰtʰu	厚い	ʰtʰɔ̃ʔ ʰɐ
凹の	ʰmɐ ʰmɐ	薄い	ʰsuʔ ʰɐ
長い	ʰfi̯ə tɕɔ:	深い	ʔnu: nə wɐ

浅い ʰsuuʔ ɕʰe
 満ちた kō
 空の ʰtō mbe
 多い ʰtɕʰo mʰɕe:
 少ない ʰɕʰiʔ ke: tɕu:
 丸い ʰgy ʰgy:
 平たい ʰluʔ luʔ
 おもての ʰjẽ nō
 うらの ʰgō hʰtō
 命中した ʰdzɯ: ʰdzɯ we ʰpʰuʔ
 歪んだ ʰdzoʔ tɕu wo
 横の ʰmʰpʰeʔ mʰpʰeʔ
 縦の ʰtō mʰbu
 まっすぐな ʰtsō hʰtsō
 曲がった ʰtɕuʔ tɕu wo
 曲がりくねった ʰke keʔ ʰko ko
 黒い ʰnaʔ to
 白い ʰke xwe
 赤い ʰme tsʰe
 黄色い ʰsʰe kʰe
 緑の ʰjō ju
 灰色の ʰke xo
 明るい ʰsu:
 暗い ʰnaʔ xo
 重い ʰdzɔ kʰe
 軽い ʰjō ɕʰe
 速い ʰsʰe: be
 ゆっくりの ʰʔa ze ʰze
 早い ʰsʰe:
 太った ʰno ʰzō
 肥えた ʰno ʰzō
 やせた ʰsɔw wu
 乾いた ʰkuũ to
 湿った ʰse ʰpe
 硬い ʰkẽ to
 軟らかい ʰçō nɔ:
 粘つく ʰtaʔ taʔ / ʰtsə taʔ
 きつい ʰse to
 正しい ʰtʰa hʰtʰi:
 誤った ʰno:
 真の ʰzi we

にせの ʰdzũ te
 生の ʰdzĩ wu / ʰdeʔ
 新しい ʰse ʰpe
 古い ʰnō mʰbe
 よい ʰfieʔ
 悪い ʰsʰə tʰsʰə:
 弱い ʰme fieʔ
 安い ʰku: ʰni ʰdaʔ wo
 年老いた ʰdzẽ ʰgo
 若い ʰdzẽ zu:
 美しい ʰmbə wu
 醜い ʰme mʰbə
 熱い ʰtsʰe ʰlɕe
 寒い ʰkə ʰsũ
 難しい ʰdɔʔ
 簡単な ʰfieʔ
 芳しい ʰsũ
 くさい ʰsũ nɔ:
 酸っぱい ʰtɕu ʰpe
 甘い ʰni hʰtə
 にかい ʰkʰə ɕʰe / ʰqʰə ɕʰe
 塩辛い ʰtsʰe kʰe / ʰni hʰsu:
 暇な ʰkʰō
 忙しい ʰme kʰō
 裕福な ʰɕʰəʔ pu
 貧しい ʰwu tʰoʔ
 清潔な ʰtsō me
 汚い ʰme hʰtsō
 生きている ʰde: ʰdeʔ we
 新鮮な ʰse ʰpe
 死んだ ʰsʰə wu dɛ tʰoʔ
 明確な ʰsʰi:
 おいしい ʰsũ
 聞きよい ʰni: tʰsʰuʔ
 見よい ʰmbə mʰbə wo
 つらい ʰdɔʔ ʰdɔʔ / ʰdɔʔ
 賢い ʰdzɔʔ ɕʰe
 愚かな ʰdɔʔ pi:
 かわいそうな ʰçə ʰdʒi
 うれしい ʰge
 幸せな ʰtɕəʔ pu

平和な ʰtɕəʔ pu ʲji: nō
 悲しい ʰçə ʲdʒi

嫌な ʰziu:

動詞

愛する ʰge
 好きだ ʰge
 淹れる ʰby
 壊して開ける ʰpʰe: / ʰpʰe: ʲgu
 助ける ʲfi: ʲuʔ ʰbe
 背負う ʰbe
 編む（髪を） ʰlɕ
 編む（かごを） ʰɣa:
 病気である ʲne
 繕う ʰtsʰaʔ
 拭く ʲje ʰtɕ:
 隠す ʰbe
 破壊する ʰɕiʔ
 水を加えて混ぜる ʰmi ʰtoʔ
 混ぜる ʲje ʰsə:
 弁償する ʲje ʰte:
 歌う ʰdzə:
 炒める ʰŋō
 口げんかをする ʰbaʔ ʰbaʔ ʰbe
 量る ʲje ʰtɕaʔ
 傘を開く ʰsā ʲje ʰɕə
 食べる ʲse
 撒き散らす ʰdzəʔ
 タバコを吸う ʰtʰō
 鞭打つ ʰdō
 出る ʰshō
 日が昇る ʲni mɐ ʰɕʰe:
 出てくる ʲgu tsʰə ʰsə ʲfiō
 掘り起こす ʲle mɐ ʰliʔ
 着る ʲtɕū
 履く ʲje tɕū
 穴に通す ʲni tsʰoʔ
 ぶつ ʰdō
 狩をする ʰɕʰe ʰɕe
 撃つ ʲlaʔ tsʰu ʰdzɔʔ

当てる ʰpʰowʔ
 殴り合いのけんかをする ʰdō ʲdō ʰbe
 分ける ʲje ʰbɐ: ʰpoʔ
 引いてくる ʰty:
 薪拾いをする ʰtʰu
 居眠りする ʰɲuʔ ʲfiu
 開ける ʲje ʰɕi
 雷が鳴る ʰbɐʔ ʲluʔ ʰde
 持ち歩く ʰtɕʰo:
 戦争に行く ʲdzɔʔ ʲdzɔʔ ʰbe
 くしゃみする ʲʔa tɕʰu ʰdeʔ
 世話をする ʰkʰəʔ
 導く ʰkʰəʔ
 かぶる（帽子を） ʲtɕū
 かぶる（布を） ʲkəʔ
 身につける ʰtʰowʔ
 生まれる ʰde: ju
 着く ʰpɐ:
 得る ʰxʰɛ
 待つ ʰdōʔ de
 うなずく ʰgu ʲjɔʔ
 点火する ʲni ʰsə:
 燃える ʰbɐ:
 灯す ʰtɕaʔ
 落ちる ʲpɐ: ʲfiō
 吊るす ʰtō ʲdzɔʔ ʲfiɐ
 釣る ʰtso
 なくす ʲje ʲdzɔʔ wə ʰtʰuʔ
 理解する ʰɕʰi:
 読む ʰdu:
 折れる ʲtɕʰwɐ bo
 身震いする ʰdeʔ ʲdeʔ ʰbe
 熱がある ʲtsʰe ʰtɕi
 翻す ʰkʰɛ luʔ ʲdzɔʔ
 放牧する ʰtsʰu

飛ぶ ʼᶜᵢdɔ̃
 分かち合う ʼᶜᵢgu
 分家する ʼtɕʰũ ʼᶜᵢgu
 狂う ʼhō
 縫う ʼje tsʰɑ?
 腐る ʼfiɔ:
 かぶせる ʼʰto ʰkũ:
 乾く ʼʰkũ to
 働く ʼlẽ fiɑʳ:
 風邪を引く ʼᶜᵢze: ʼnɐ
 切り分ける ʼᶜᵢnɐ
 切断する ʼje ʰnɐ
 切ってしまう ʼᶜᵢnɐ ʰtow?
 刈る ʼᶜᵢnɐ
 与える ʼʰte:
 ついて行く ʼᶜᵢge: tʰe ʼtsʰə fiō
 いっぱいである ʼtɕʰow?
 風が吹く ʼᶜᵢlɔ̃
 関心を持つ ʼɕō ʰdʒi ʼʰtɐ
 囲い込む ʼje kwɐ
 跪く ʼʰtso?
 転がる ʼᶜᵢda: ʰda:
 年越しする ʼlu ʰsɛ:
 渡る ʼᵛgu
 経る ʼᵛgu
 恥ずかしがる ʼᶜᵢkʰũ:
 怖がる ʼʰkaʳ:
 呼ぶ ʼkuʳ ʰtɔ?
 叫ぶ ʼkuʳ ʰtɔ?
 飲む ʼᵐtʰɔ̃
 うらむ ʼⁿdzɔ:
 火であぶる ʼᶜᵢgʱʱ / ʼᶜᵢdʒi?
 なだめる ʼᶜᵢdzoʳ ʰdʒi?
 悔いる ʼne: ʰmɐ tɕʰɐ
 身ごもる ʼtɕʰe:
 換える ʼᶜᵢdʒi
 振る ʼᶜᵢjũ ʰjũ
 帰る ʼtsʰə fiō
 答える ʼsɔ:
 混ぜる ʼje ʰsɔ:
 搾る ʼᶜᵢzu

覚えている ʼʰtɐ ʰtso ʼbe
 預ける ʼʰto ʼfiɐ
 送る ʼʰtɕʰ: ʼfiũ
 うらやむ ʼⁿdzɔ:
 選び出す ʼʰtʰʱ?
 減らす ʼᶜᵢtʰʱ
 はさみで切る ʼje ʰpaʳ:
 語る ʼᶜᵢdzã
 交換する ʼᶜᵢdʒɔ̃ ʰdʒɔ̃ ʼbe
 交わる ʼfiuʳ pu ʼbe
 水を引く ʼtɕʰʱ ʼʰtow?
 教える ʼʰlũ?
 鶏が鳴く ʼɕɐ ʰsɛ:
 猫が鳴く ʼɕi lɐ ʼʰti:
 ロバが鳴く ʼtɔ: jʱ: ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 馬が鳴く ʼʰtɐ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 牛が鳴く ʼᶜᵢlɔ̃ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 犬がほえる ʼtsʰə ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 ぶたが鳴く ʼpʰɑʳ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 羊が鳴く ʼlɔʳ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 トラがほえる ʼʰtaʳ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 狼がほえる ʼʰɕō kʰʱ ʼʰtɕiʳ ʼɕu
 呼ばれる ʼkuʳ ʰtɔ?
 実がなる ʼsʰə ku ʼsʰə lʱ ʼʰtaʳ
 結水する ʼʰsō ʼkʰʱ:
 結婚する ʼʰtɔ: kʰɐ ʼʰtɕi: ʼbe
 ほどく ʼje ʰtoʳ ʼᶜᵢgo
 お金を借りる ʼʰtsɔ
 ものを借りる ʼᶜᵢjɛ:
 浸す ʼʰtɔʳ ʰbō wɐ
 入る ʼje ʱgu
 過ぎる ʱgu ʱō
 びっくりさせる ʼtsʰoʳ
 救う ʼʰtoʳ ʼᶜᵢde: jɐ
 挙げる ʼje ʰtɕɑ?
 のこぎりで切る ʼpaʳ:
 沸く ʼᶜᵢtɕʰʱ
 開く ʼxwɐ
 運転する ʼkʰaʳ
 始める ʼᵛgu ʰpa:
 開墾する ʼɕō ʼʰko

切り倒す	ˈfi̯nɐ	叩いて音を出す	ˈfi̯dɔ̃
切る	ˈfi̯nɐ	走る	ˈfi̯dzɔ̃?
見る	ˈnɪdzɐ?	茶を入れる	ˈtʂa ˈhpõ
見える	ˈnɪt̪õ	賠償する	ˈje tʂʰu?
医者に見せる	ˈne ˈfi̯dā we ˈnɪdzɐ?	衝突する	ˈfi̯dɔ̃ ˈfi̯dɔ̃ ˈbe
かつぐ	ˈmbo:	木を切る	ˈs̪ʰə ˈhʂa?
暖める	ˈu̯gɔ̃?	ほとぼしる	ˈhtu?
頼る	ˈnɪho:	破れる	ˈtʂʰe? tʂʰe?
ぬかずく	ˈʔa sə ˈnɪ ˈbe	裂けて壊れる	ˈpʰa:
咳をする	ˈhsu:	壊れる	ˈtʂʰa?
渴く	ˈhko:	敷く	ˈht̪õ
刻む	ˈhpe:	手荒く扱う	ˈu̯ga ɕĩ
泣く	ˈnɪ	だます	ˈnɪtʂʰə ˈmbe:
眠たい	ˈfi̯dɔ̃ ˈfi̯nɐ:	レンガで造る	ˈhtsə?
引く	ˈndzə: le ˈʔa ˈnɪ	乗る	ˈs̪ə
排泄する	ˈhtɕi kwe ˈht̪õ	起きる	ˈje lɔ̃
漏れる	ˈpu? tɕʰe fĩõ	牽引する	ˈhtu:
来る	ˈpə fĩõ	負う	ˈhtsə
引っ張りあげる	ˈje ˈhko	略奪する	ˈhku
年をとる	ˈdze ˈu̯go	叩く	ˈtɕʰā
疲れる	ˈfi̯nɐ:	振り上げる	ˈje ˈhtɕa?
乾かす	ˈje ɕʰõ	詮索する	ˈje pʰa:
とっておく	ˈfiã:	切り刻む	ˈfi̯nɐ
耳が聞こえない	ˈfi̯nɐ ˈhkẽ	取る	ˈkʰə̃
抱きしめる	ˈhto? ˈpō we	娶る	ˈkʰə̃
漏らす	ˈsa?	行く	ˈu̯gu
叱る	ˈmbe	回復する	ˈje fĩe?
埋める	ˈfi̯be:	道を譲る	ˈmə fĩe ˈhsə ˈu̯gu
買う	ˈnɪ:	温める	ˈtsʰe
売る	ˈhtsō	知り合う	ˈs̪ʰi:
満ちる	ˈkō	投げる	ˈfi̯dzu?
ない	ˈnĩ nō / ˈmɛ dzu nō	もむ	ˈfi̯dzə
燃え尽きる	ˈje s̪ʰə / ˈje ˈhse?	撒く	ˈhtɪ:
触れる	ˈno? / ˈno? no?	小便する	ˈhsə: ˈht̪õ
研ぐ	ˈfi̯de:	播種する	ˈs̪ʰə ˈhtu?
つかむ	ˈlɛ	掃く	ˈɕʰa?
持っておく	ˈlɛ ˈla? ˈnɪdzɐ:	殺す	ˈhse?
嘔吐する	ˈje ˈhtɕo?	ふるいにかける	ˈhtsa?
這う	ˈndza?	射る	ˈfi̯dzu?
山に登る	ˈfĩə̃ fĩə̃ ˈndza?	伸ばす	ˈhtɕō
木に登る	ˈs̪ʰə pʰō ˈndza?	成長する	ˈje tʂʰi

さびる $^{-h}sv \wedge je \ ^hsv$
 (人が子を) 産む $^{\wedge}de?$
 腹を立てる $^{-}ts^he? \ p\acute{e} \ 'sv$
 残される $^{\wedge}fiu:$
 である $^{\wedge}zi:$
 収穫する $^{\wedge}fi \eta e$
 受け取る $^{\wedge}fia^{\circ}$
 髪をとく $^{-}s^hu?$
 負ける $^{\circ}s^{\wedge}e$
 熟れる $^{-}m\acute{o}:$
 転落する $^{\circ}pu: \ t\acute{c}^he \ fi\acute{o}$
 投げつける $^{\wedge}ji\acute{o}?$
 眠る $^{\wedge}fi \ ne?$
 寝つく $^{\wedge}fi \ n\acute{o}:$
 話す $^{\circ}s\acute{o}:$
 裂く $^{-h}tu:$
 死ぬ $^{-}s^h\acute{o}$
 計算する $^{\wedge}hts\acute{o}$
 粉碎する $^{\wedge}ts^he \ ^htsu:$
 傷つける $^{-}p^he:$
 錠をする $^{\wedge}gu \ k^h\acute{o}?\ ^ht\acute{c}u:$
 崩壊する $^{\wedge}me \ ^hp\acute{o}?$
 持ち上げる $^{\wedge}je \ ^ht\acute{c}a?$
 横になる $^{\wedge}hto? \ ^fi \ ne?$
 やけどする $^{\wedge}hsa?$
 逃げる $^{\wedge}py: \ ^gu$
 物乞いする $^{\wedge}hl\acute{o}$
 頭痛がする $^{-}gu \ 'ne$
 蹴る $^{\wedge}du? \ t^hy: \ ^fi \ dz\acute{a}?$
 剃る $^{\wedge}z\acute{o}:$
 曇りである $^{-}fi \ n\ddot{u} \ ^m\acute{o}?$
 晴れる $^{-}fi \ n\ddot{u} \ ^fi \ z\acute{o}$
 夜が明ける $^{-}fi \ n\ddot{u} \ ^h \ su:$
 暗くなる $^{-}ts^h\acute{o} \ ts^h\acute{o}$
 なめる $^{\wedge}dz\acute{a}:$
 担ぐ $^{\wedge}mbo:$
 踊る $^{\wedge}ts^h\acute{o} \ ^fi \ ts^h\acute{o}$
 跳ねる $^{\wedge}m^p^h\acute{a}?$
 貼る $^{\wedge}te$
 聞く $^{\wedge}n\acute{e}$
 盗む $^{\wedge}ku$

吐く $^{\wedge}to:$
 押す $^{\wedge}ty:$
 退く $^{\wedge}fi \ gw\acute{a} \ ^ht\acute{o} \ ^gu$
 飲みこむ $^{\wedge}me \ ^fi \ n\acute{o}?$
 掘る $^{\wedge}ku$
 曲がる $^{\circ}k\acute{o}?$
 曲げる $^{\circ}t\acute{c}u? \ t\acute{c}u?$
 終わる $^{\wedge}ne: \ p\acute{o} \ t^h\ddot{u}$
 遊ぶ $^{\circ}ts^he \ le \ ^be?$
 忘れる $^{\circ}je \ ^fi \ dz\acute{e}:$
 餌をやる $^{\wedge}lu?$
 におう $^{\wedge}n\ddot{u}$
 尋ねる $^{\circ}t\acute{o}$
 握る $^{\circ}la? \ p\acute{e} \ ^gu$
 洗う $^{-}k^h\acute{u}$
 好む $^{\wedge}ge$
 目が見えない $^{-}fi \ ni? \ ^ke:$
 下りる $^{\circ}me \ pu?$
 (動物が子を) 産む $^{\wedge}k^h\acute{a}:$
 卵を産む $^{\wedge}g\acute{o} \ we \ ^fi \ g\acute{o}$
 雨が降る $^{\circ}ts^h\acute{a}: \ ^pu?$
 捧げる $^{\wedge}te: / ^ht\acute{e}: \ ^gu$
 信じる $^{\circ}t\acute{e}$
 思う $^{\circ}t\acute{e} \ t\acute{c}^he \ fi\acute{o}$
 笑う $^{\wedge}ge:$
 書く $^{\circ}p\acute{a}$
 休む $^{\circ}ni \ ^h \ su$
 学ぶ $^{\wedge}lu?$
 探す $^{\wedge}je \ ^htsu:$
 押さえる $^{-}hto? \ ^ht\acute{ts}\acute{o} \ je / ^ht\acute{ts}\acute{e}:$
 かゆい $^{\circ}ts^he \ ts^he \ ^htu:$
 育てる $^{\wedge}su$
 揺れる $^{-}fi \ j\acute{o}?\ ^fi \ j\acute{o}?\ ^be$
 揺する $^{\wedge}j\acute{o}?$
 噛む $^{\wedge}d\acute{e}:$
 必要である $^{\wedge}d\acute{o}:$
 秘密にする $^{\circ}hsu \ zu \ ^me? / ^me \ z\acute{a}:$
 勝つ $^{\circ}ta^{\circ}$
 抱擁する $^{-}ts^h\acute{o} \ ^hp\acute{o}$
 泳ぐ $^{\circ}ts^h\acute{u} \ ^fi \ z\acute{o}?$
 持っている $^{\wedge}fi\acute{o}:$

いる/ある ʔfiə:
 出会う $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{t}^{\text{h}}\text{õ}$
 めまいがする $\text{ʔjɣ: ʔ}^{\text{h}}\text{k}^{\text{h}}\text{o:}$
 栽培する $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{tsəʔ}$
 いる $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{ɿ}$
 瞬きする $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{d}^{\text{h}}\text{uʔ}$
 抽出する $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{s}^{\text{h}}\text{eʔ}$
 摘む $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{toʔ}$
 立つ $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{toʔ ɿ}$
 引っ張って開く $\text{ʔje ʔ}^{\text{h}}\text{d}^{\text{h}}\text{õ}$
 かさが増す $\text{ʔ}^{\text{m}}\text{bur}^{\text{h}}\text{ʔ}$
 腹が張る $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{to wɐ ʔ}^{\text{h}}\text{dze:}$
 火をつける $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{ni ʔ}^{\text{m}}\text{beʔ}$
 寒気がする $\text{ʔk}^{\text{h}}\text{õ ʔ}^{\text{h}}\text{s}^{\text{h}}\text{u}$
 探し出す $\text{ʔje ʔ}^{\text{h}}\text{ẽ}$
 蒸す $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{poʔ}$

知っている $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{i:}$
 指す $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{dz}^{\text{h}}\text{uʔ ʔ}^{\text{h}}\text{t}^{\text{h}}\text{õ}$
 種をまく $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{tsəʔ}$
 腫れる $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{boʔ}$
 煮る $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{tsu}$
 ひっつかむ $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{z}^{\text{h}}\text{õ}$
 振り返る $\text{ʔpe ʔ}^{\text{h}}\text{k}^{\text{h}}\text{o:}$
 追いかける $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{ɕɐ}$
 捉える $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{z}^{\text{h}}\text{õ}$
 行く $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{gu}$
 座る $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{doʔ}$
 する ʔbeʔ / ʔbe
 夢を見る $\text{ʔ}^{\text{h}}\text{nə ɿ}^{\text{h}}\text{mə}$
 商売する ʔsẽ ji ʔbe
 連れる ʔfiu: pu ʔbe

その他の品詞類

たった今 ʔtɐ
 そして ʔnõ
 とても $\text{ʔa ze ʔ}^{\text{h}}\text{tsə}$
 今すぐ $\text{ʔs}^{\text{h}}\text{eʔ}$
 一緒に $\text{ʔk}^{\text{h}}\text{ɐ s}^{\text{h}}\text{i}$

～もまた ʔfiõ ɿɐ
 もっとも ʔke: ɿu
 最後に $\text{ʔke ʔt}^{\text{h}}\text{i:}$